

Ⅱ 平成22年(2010年)鉍工業指数の動向

1 概 況

(1) 生産動向 — 生産指数は大幅に上昇 —

平成 22 年の生産指数（原指数）は、前年比 17.3%上昇の 87.6 となり、4 年ぶりに上昇した（表 1、図 1、統計表第 1 表）。

表1 鉱工業生産指数の推移

平成17年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前年比 (%)	前期比 (%)	指 数	前年比 (%)	前期比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成18年	101.2	1.2	-	104.5	4.5	-
19年	100.7	▲ 0.5	-	107.4	2.8	-
20年	97.8	▲ 2.9	-	103.8	▲ 3.4	-
21年	74.7	▲ 23.6	-	81.1	▲ 21.9	-
22年	87.6	17.3	-	94.4	16.4	-
平成22年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	86.0	-	7.6	94.6	-	7.4
II 期	88.6	-	3.0	95.3	-	0.7
III 期	88.2	-	▲ 0.5	94.3	-	▲ 1.0
IV 期	87.5	-	▲ 0.8	94.2	-	▲ 0.1

注: 全国指数は「経済産業省 鉱工業指数」から転載

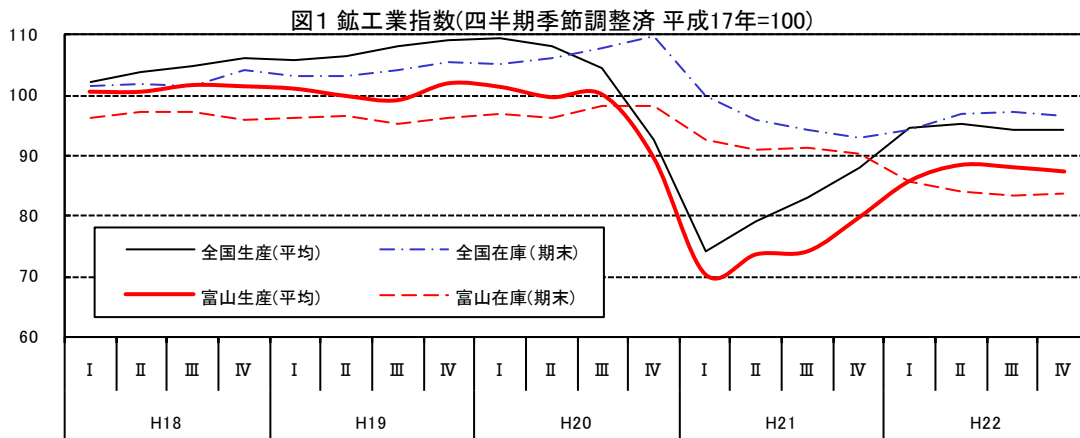


表2 生産指数(年平均)

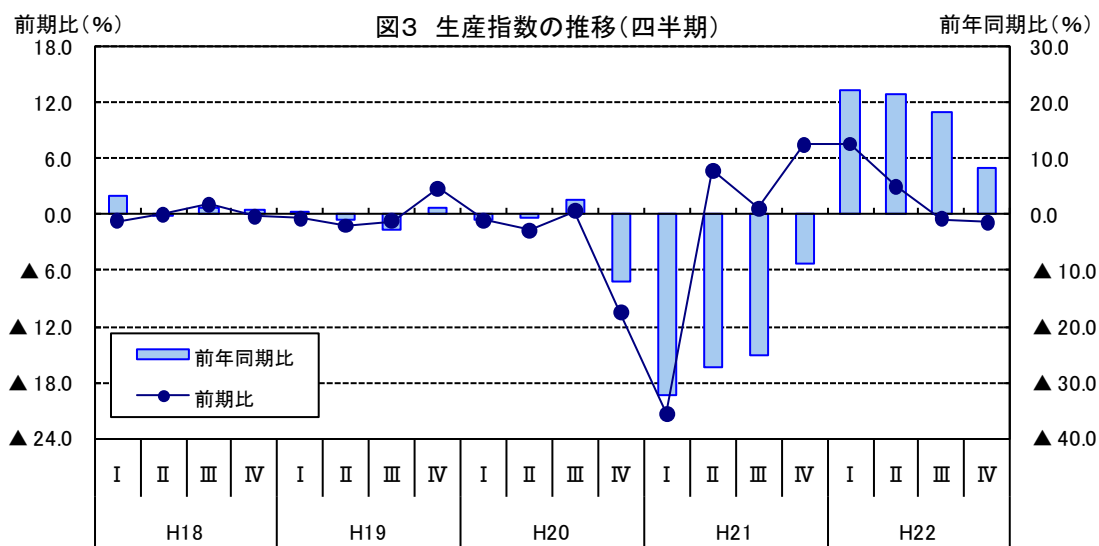
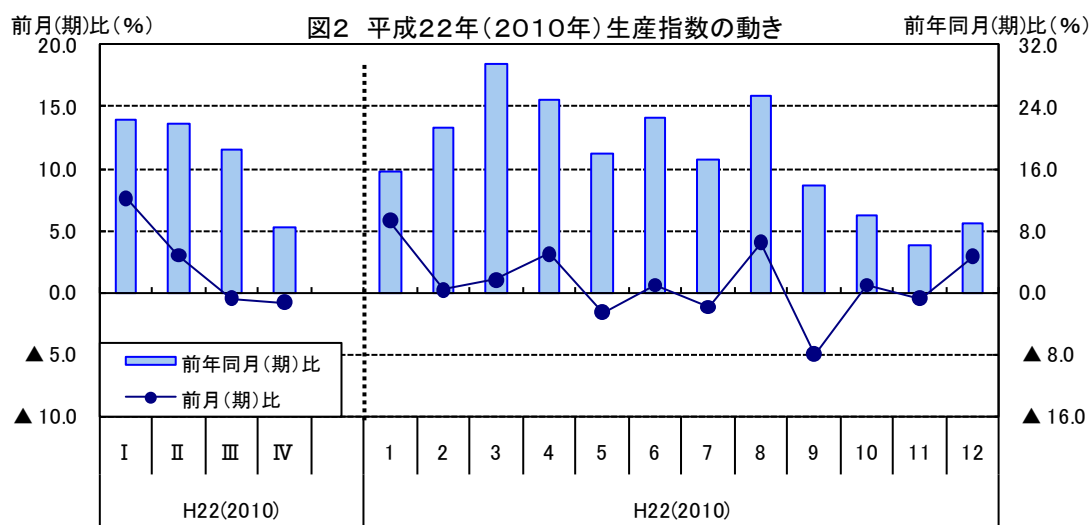
平成17年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考)
	ウェイト	21年	22年			ウェイト
鉱工業	10000.0	74.7	87.6	17.3	17.27	10000.0
製造工業	10000.0	74.7	87.6	17.3	17.27	9979.0
鉄鋼業	349.5	60.6	84.9	40.1	1.14	599.7
非鉄金属工業	443.7	72.4	83.3	15.1	0.65	211.7
金属製品工業	1134.9	77.5	80.6	4.0	0.47	566.8
一般機械工業	1225.6	48.7	92.3	89.5	7.15	1318.2
電気機械工業	2112.5	55.9	68.3	22.2	3.51	1840.0
輸送機械工業	342.4	67.9	81.4	19.9	0.62	1685.8
窯業・土石製品工業	236.9	73.5	87.8	19.5	0.45	293.0
化学工業	2034.0	113.5	118.7	4.6	1.42	1181.3
医薬品	1088.8	144.5	149.3	3.3	0.70	358.3
プラスチック製品工業	471.9	62.9	71.3	13.4	0.53	383.7
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	78.5	85.0	8.3	0.41	241.0
繊維工業	358.4	60.9	62.8	3.1	0.09	200.9
食料品工業	265.3	97.8	99.5	1.7	0.06	721.2
その他工業	557.3	76.9	86.8	12.9	0.74	533.9
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	11108.5	75.2	87.8	16.8	18.74	10424.2
電力・ガス事業	1108.5	78.7	89.8	14.1	1.65	424.2

※ 寄与度 = $\frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$

平成 22 年の生産の動きを四半期別にみると、生産の前期比（季節調整済指数）は、I 期 7.6%、II 期 3.0%と平成 21 年 II 期以降 5 期連続で上昇したが、III 期▲0.5%、IV 期▲0.8%と 2 期連続で低下した。

また、前年同期比（原指数）は、I 期 22.2%、II 期 21.7%、III 期 18.5%、IV 期 8.3%と 4 期連続で前年を上回った（図 1、図 2、図 3）。

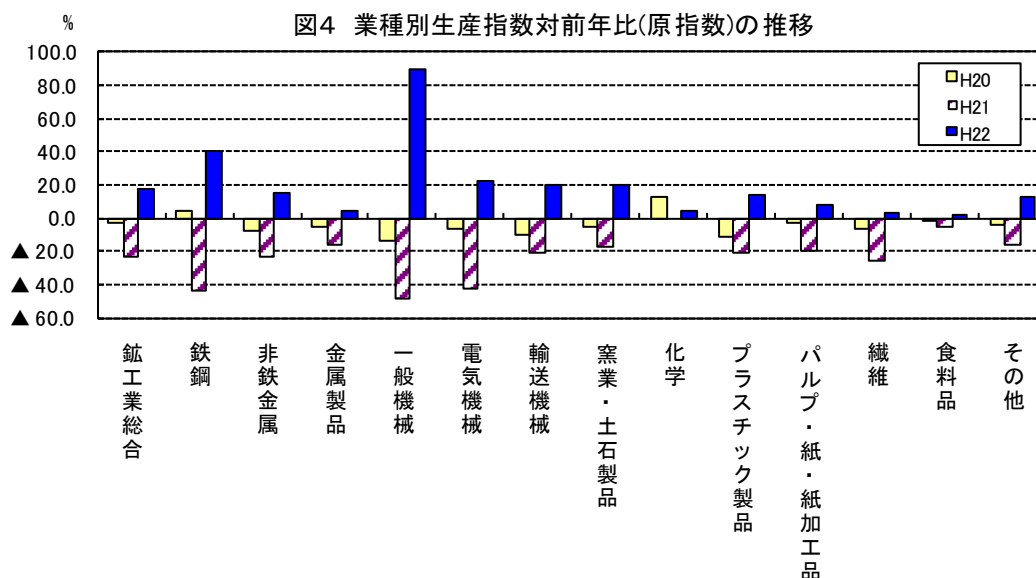


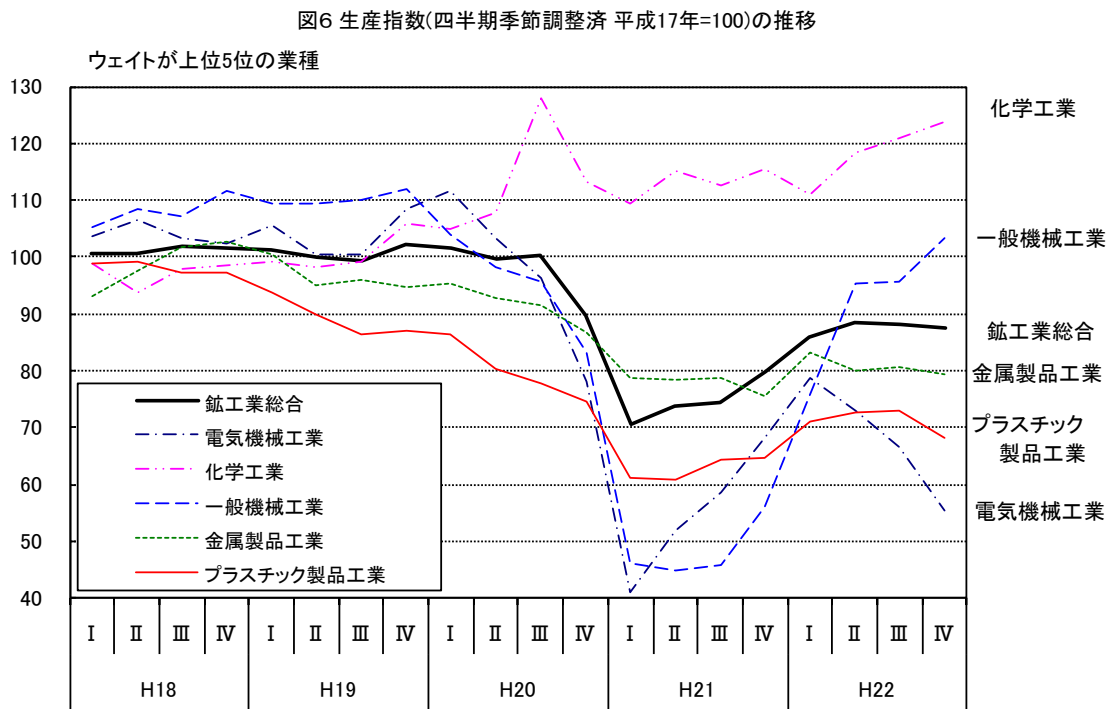
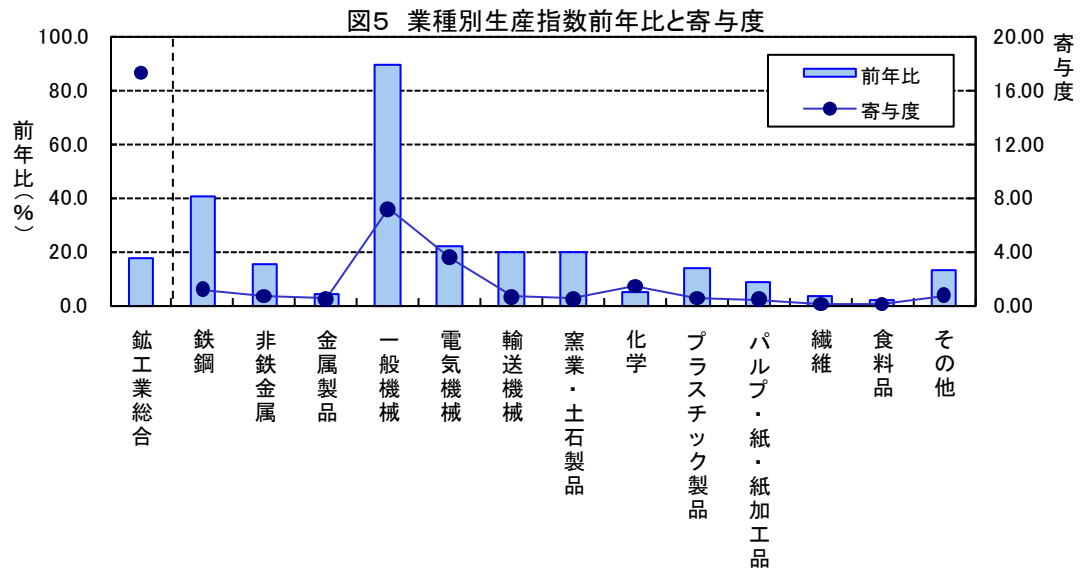
業種別にみると、製造工業 13 業種中、一般機械工業、電気機械工業など 13 業種すべてで上昇した（表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の上昇に最も影響を与えたのは一般機械工業（寄与度 7.15）で、ロボット・産業機械などの増加により、前年比 89.5%上昇の 92.3 となった。ついで、電気機械工業（寄与度 3.51）が、電子部品などの増加により前年比 22.2%上昇の 68.3 となった（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6）。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

業種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
一般機械工業	7.15	ロボット・産業機械	—
電気機械工業	3.51	電子部品	回転・静止電気機器
化学工業	1.42	医薬品	—
鉄鋼業	1.14	鑄鍛鋼品類	—
その他工業	0.74	その他製品工業	精密機械工業
非鉄金属工業	0.65	アルミニウム圧延製品	非鉄金属地金
輸送機械工業	0.62	自動車ボデー	—
プラスチック製品工業	0.53	機械器具部品	—
金属製品工業	0.47	金属製建具	軽金属板製品
窯業・土石製品工業	0.45	炭素製品	セメント製品
パルプ・紙・紙加工品工業	0.41	紙	—
繊維工業	0.09	その他繊維製品	織物
食料品工業	0.06	冷凍調理品	その他食料品





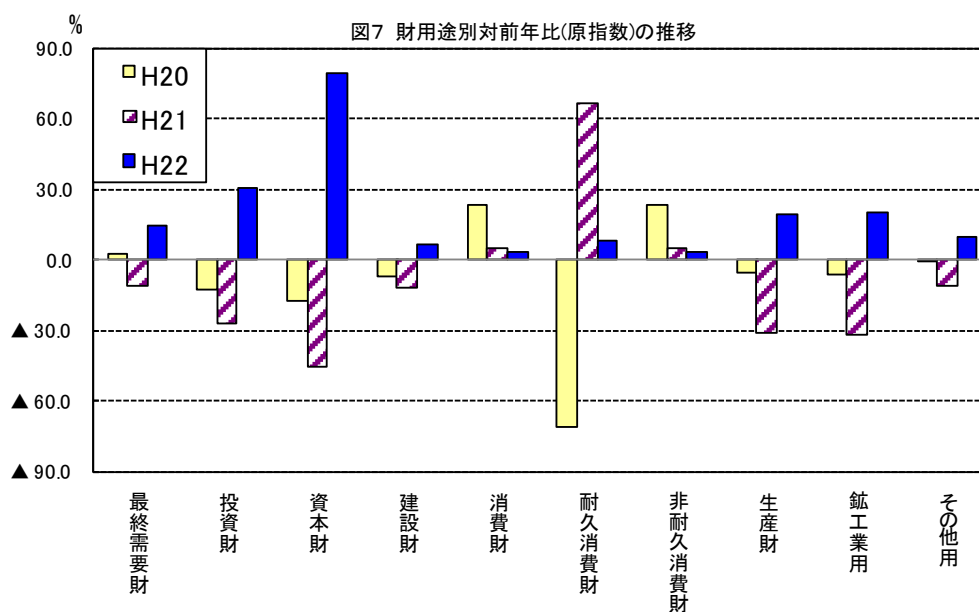
財用途別生産指数(原指数)の前年比は、最終需要財が14.6%上昇し、生産財が19.3%上昇したことにより、全体で17.3%上昇した。

最終需要財では、投資財(寄与度5.55)が前年比30.9%上昇し、消費財(寄与度0.80)が前年比3.1%上昇したことにより、全体では14.6%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財(寄与度10.54)が前年比19.8%の上昇となった(表4、図7、統計表第5表)。

表4 生産指数(財用途分類・年平均) 平成17年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%point)
		21年	22年		
鉱工業	10000.0	74.7	87.6	17.3	17.27
最終需要財	3498.2	93.4	107.0	14.6	6.37
投資財	2034.1	66.0	86.4	30.9	5.55
資本財	845.7	52.3	94.0	79.7	4.72
建設財	1188.4	75.8	81.0	6.9	0.83
消費財	1464.1	131.5	135.6	3.1	0.80
耐久消費財	2.0	34.5	37.3	8.1	0.00
非耐久消費財	1462.1	131.6	135.7	3.1	0.80
生産財	6501.8	64.7	77.2	19.3	10.88
鉱工業用生産財	6250.1	63.7	76.3	19.8	10.54
その他用生産財	251.7	90.6	99.3	9.6	0.29



(2) 在庫動向 — 在庫指数は低下 —

平成 22 年の在庫指数（原指数）は、前年末比▲5.8%低下の 83.9 となり、2 年連続で低下した（表 5）。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成17年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
18年	93.7	▲ 1.9	-	102.7	3.5	-
19年	94.1	0.4	-	104.0	1.3	-
20年	96.0	2.0	-	109.0	4.8	-
21年	89.1	▲ 7.2	-	93.1	▲ 14.6	-
22年	83.9	▲ 5.8	-	96.6	3.8	-
平成22年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	85.6	-	▲ 5.2	94.4	-	1.5
II 期	84.1	-	▲ 1.8	96.9	-	2.6
III 期	83.4	-	▲ 0.8	97.3	-	0.4
IV 期	83.6	-	0.2	96.7	-	▲ 0.6

平成 22 年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比（季節調整済指数）は、I 期▲5.2%、II 期▲1.8%、III 期▲0.8%と平成 21 年IV 期以降 4 期連続で低下したが、IV 期は 0.2%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）では、I 期▲8.6%、II 期▲8.6%、III 期▲8.5%、IV 期▲5.8%と平成 21 年 I 期以降 8 期連続で前年を下回った（図 8、図 9）。

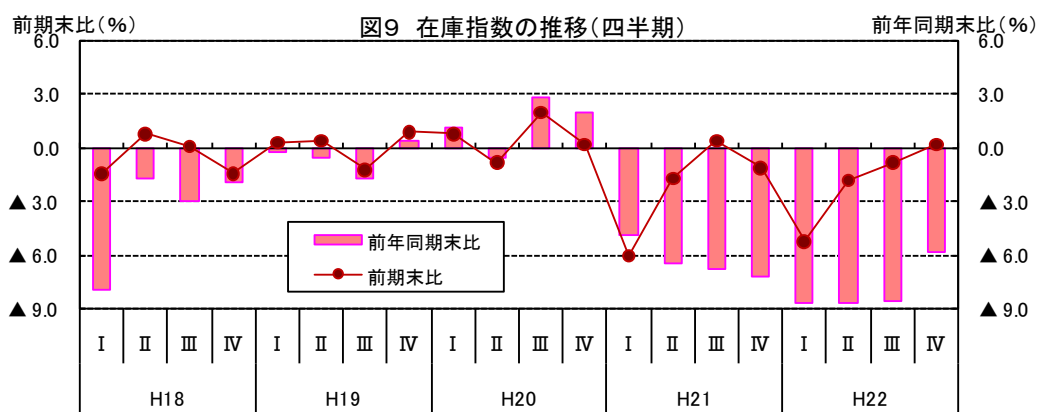
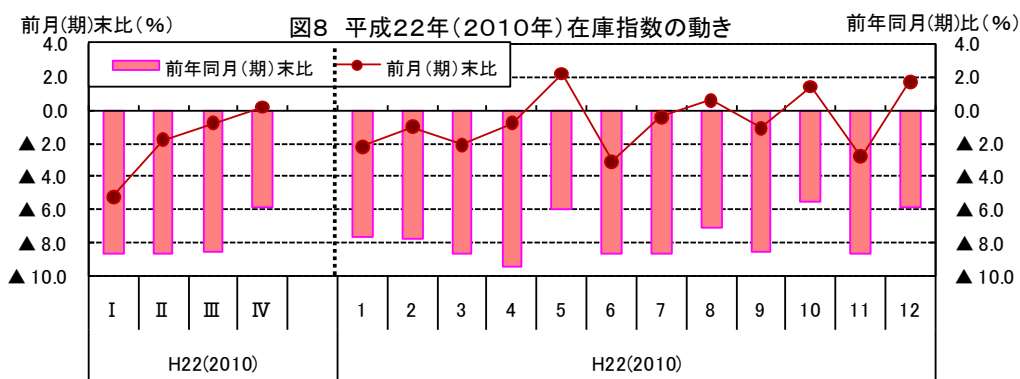


表6 在庫指数(年末)

平成17年=100

	富山県 ウェイト	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)	全国(参考) ウェイト
		21年	22年			
鉱工業	10000.0	89.1	83.9	▲ 5.8	▲ 5.84	10000.0
製造工業	10000.0	89.1	83.9	▲ 5.8	▲ 5.84	9984.4
鉄鋼業	1090.7	66.4	74.2	11.7	0.95	1062.1
非鉄金属工業	826.8	69.0	74.0	7.2	0.46	276.5
金属製品工業	674.5	59.1	48.4	▲ 18.1	▲ 0.81	715.5
一般機械工業	668.5	76.7	110.8	44.5	2.56	922.2
電気機械工業	38.5	321.3	292.2	▲ 9.1	▲ 0.13	1209.5
輸送機械工業	155.9	112.1	162.0	44.5	0.87	831.9
窯業・土石製品工業	433.0	58.3	50.7	▲ 13.0	▲ 0.37	632.8
化学工業	2527.2	131.8	98.4	▲ 25.3	▲ 9.47	1534.2
医薬品	1337.1	171.9	114.9	▲ 33.2	▲ 8.55	-
プラスチック製品工業	891.3	84.9	85.5	0.7	0.06	538.6
パルプ・紙・紙加工品工業	911.5	94.2	94.2	0.0	0.00	330.7
繊維工業	521.2	63.4	75.6	19.2	0.71	422.3
食料品工業	848.1	78.0	76.6	▲ 1.8	▲ 0.13	430.8
その他工業	412.8	52.8	41.2	▲ 22.0	▲ 0.54	538.5
(参考)						
産業総合(鉱工業、電力・ガス事業)	10001.4	89.1	83.9	▲ 5.8	▲ 5.84	10000.0
電力・ガス事業	1.4	126.2	106.7	▲ 15.5	▲ 0.00	-

$$\text{※ 寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

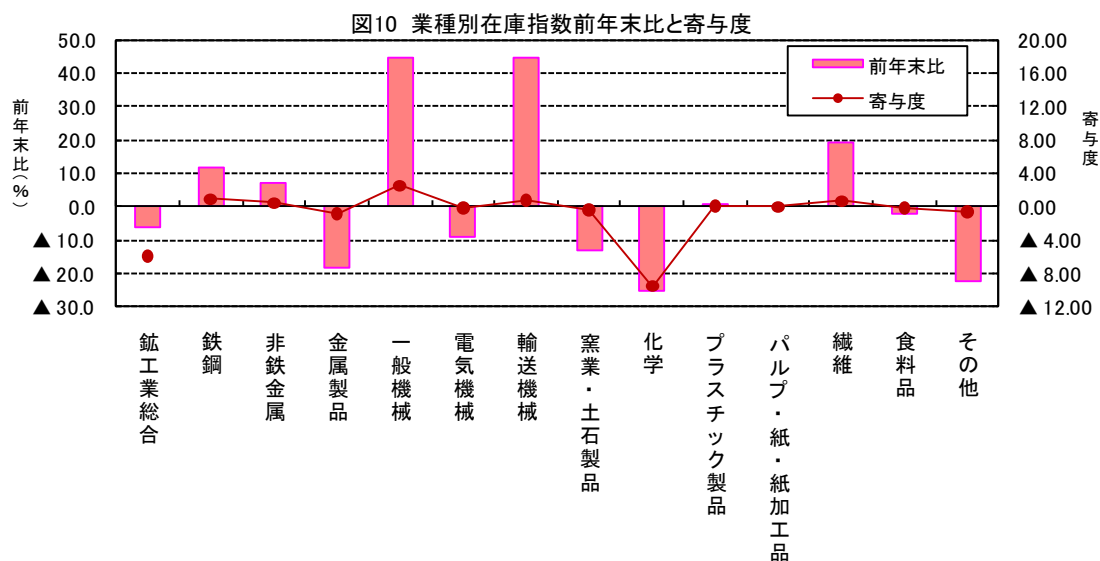
業種別にみると、製造工業 13 業種中、化学工業、金属製品工業など 6 業種が低下し、一般機械工業、鉄鋼業など 6 業種が上昇した。また、パルプ・紙・紙加工品工業の 1 業種が横ばいとなった。(表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照)。

在庫指数(原指数)全体の低下に最も影響を与えたのは化学工業(寄与度▲9.47)で、医薬品などの減少により、前年末比▲25.3%低下の 98.4 となった。ついで、金属製品工業(寄与度▲0.81)は金属製建具などの減少により、前年末比▲18.1%低下の 48.4 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは一般機械工業(寄与度 2.56)で軸受などの増加により、前年末比 44.5%上昇の 110.8 となった。次いで、鉄鋼業(寄与度 0.95)が熱間圧延鋼材などの増加で前年末比 11.7%上昇の 74.2 となった(表 6、表 7、図 10)。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%point)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	化学工業	▲ 9.47	接着剤	医薬品
	金属製品工業	▲ 0.81	—	金属製建具
	その他工業	▲ 0.54	その他製品工業	精密機械工業
	窯業・土石製品工業	▲ 0.37	ガラス製品	セメント製品
	食料品工業	▲ 0.13	その他食料品	飲料
	電気機械工業	▲ 0.13	半導体	回転・静止電気機器
上昇業種	一般機械工業	2.56	軸受	金属工作機械
	鉄鋼業	0.95	熱間圧延鋼材	素製品(鋼半製品含)
	輸送機械工業	0.87	二輪自動車部品	—
	繊維工業	0.71	衣類	化繊・紡績
	非鉄金属工業	0.46	アルミニウム圧延製品	アルミニウム二次精錬
	プラスチック製品工業	0.06	その他プラスチック製品	機械器具部品
横ばい業種	パルプ・紙・紙加工品工業	0.00	その他紙製品	紙



財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、生産財が4.5%上昇したものの、最終需要財が▲16.4%低下したことにより、全体で▲5.8%低下した。

最終需要財では、投資財（寄与度▲0.84）が前年末比▲8.1%低下し、消費財（寄与度▲7.21）が前年末比▲18.5%低下したことにより、全体では▲16.4%の低下となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度2.16）が前年末比4.5%の上昇となった（表8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成17年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%point)
		21年	22年		
鉱工業	10000.0	89.1	83.9	▲5.8	▲5.84
最終需要財	4043.9	108.6	90.8	▲16.4	▲8.08
投資財	1411.2	65.4	60.1	▲8.1	▲0.84
資本財	241.7	95.5	90.2	▲5.5	▲0.14
建設財	1169.5	59.1	53.8	▲9.0	▲0.70
消費財	2632.7	131.7	107.3	▲18.5	▲7.21
耐久消費財	-	-	-	-	-
非耐久消費財	2632.7	131.7	107.3	▲18.5	▲7.21
生産財	5956.1	75.9	79.3	4.5	2.27
鉱工業用生産財	5660.1	75.4	78.8	4.5	2.16
その他用生産財	296.0	86.1	88.7	3.0	0.09

(3) 在庫循環

富山県の在庫循環図をみると、平成18年Ⅰ期～平成19年Ⅰ期は「在庫減少局面」に位置していた。平成19年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫積み増し局面」へ、平成20年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫調整局面」の境目へ、Ⅱ期は「在庫調整局面」と「在庫減少局面」の境目へ、Ⅲ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目へ、Ⅳ期、平成21年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫調整局面」へ移動した。平成22年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に位置している(図11)。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成18年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目に位置していた。平成18年Ⅱ期～平成19年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」と「在庫積み増し局面」の境目へ、Ⅳ期、平成20年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ、Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、Ⅳ期、平成21年Ⅰ期～Ⅲ期は「在庫調整局面」へ、Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動した。平成22年Ⅰ期～Ⅳ期は「在庫積み増し局面」に位置している(図12)。

〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環(Inventory Cycle)と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図(生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の4局面)として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある(傾向変動を除去した場合)。

なお、過去の分析から、ほぼ40ヵ月(3～4年)の循環を示すことが多く、「キッチンの波」(キッチン(Kitchen)が分析したもの)とも呼ばれる。

在庫循環の4局面とは、次のとおり。

「在庫積み増し局面」

景気が上向き需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す(図b1,b2)。

「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる(意図せざる在庫投資、図c1,c2)。

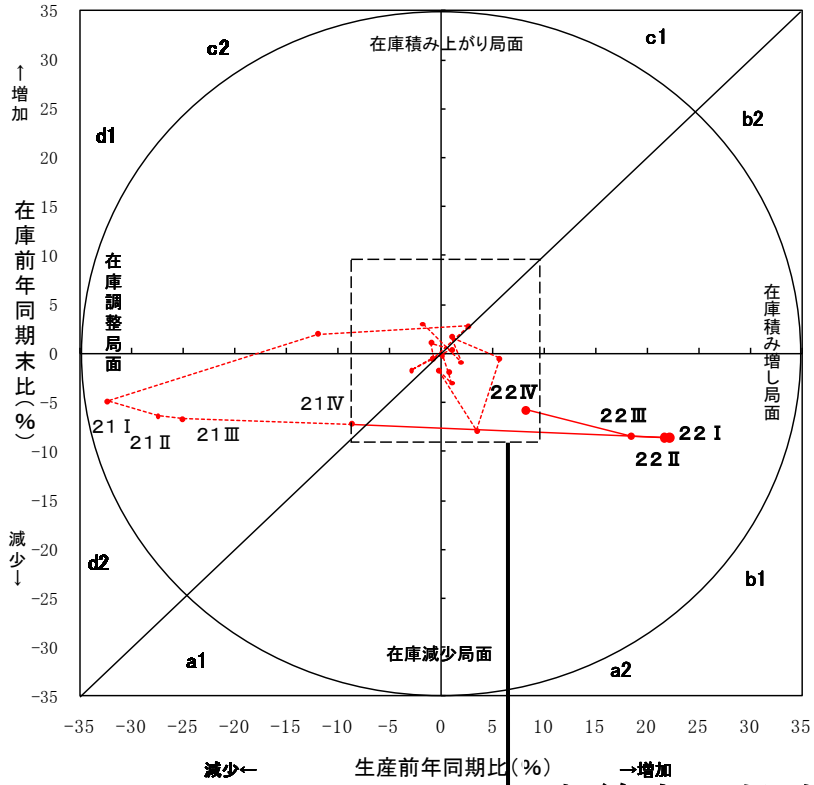
「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる(図d1,d2)。

「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する(意図せざる在庫減局面、図a1,a2)。

図11 富山県の在庫循環の推移



点線内を拡大

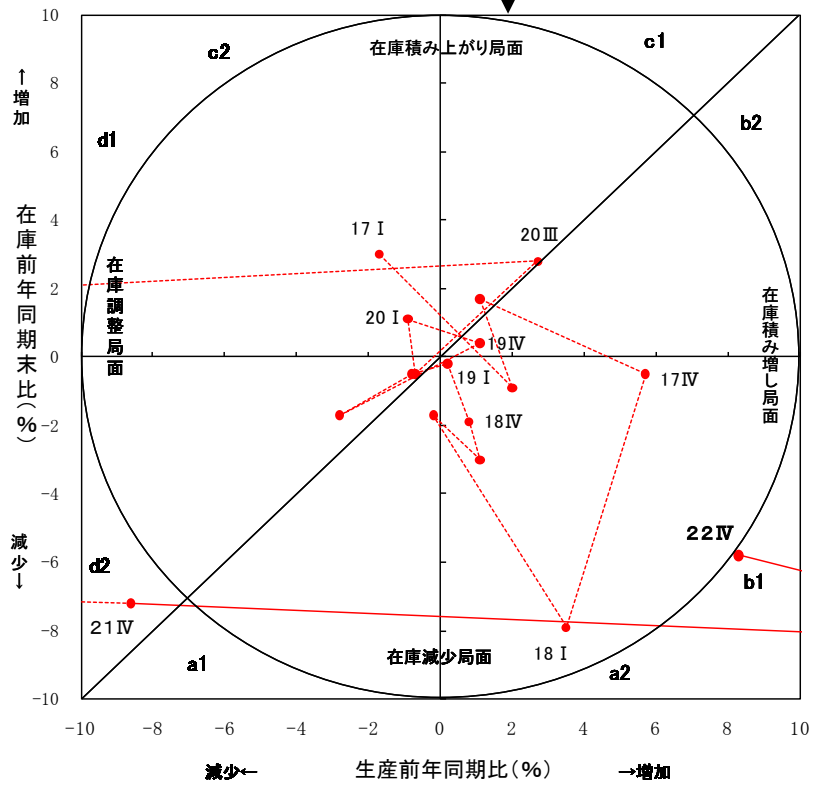
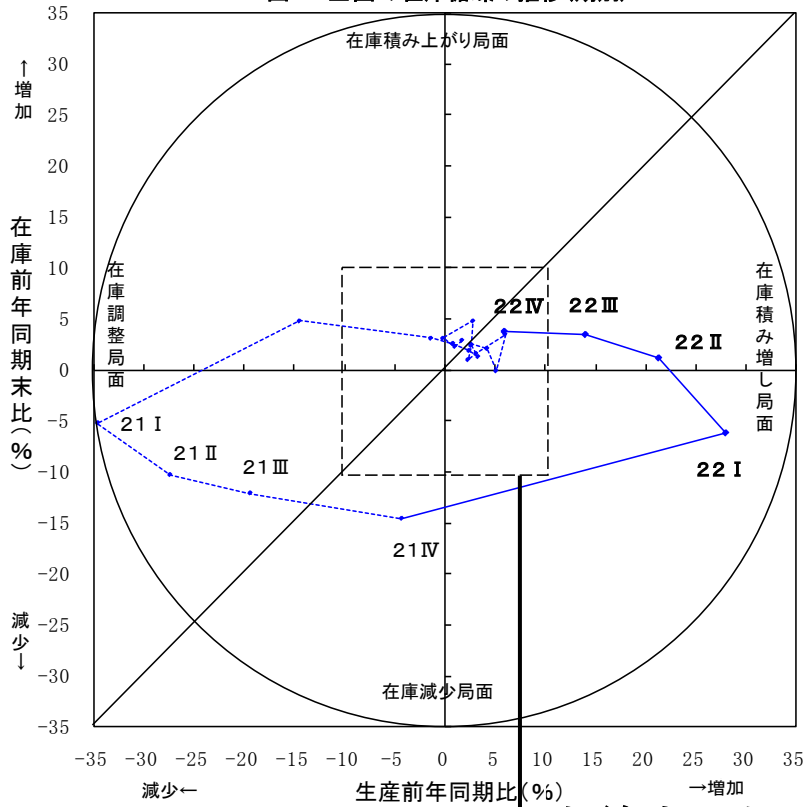
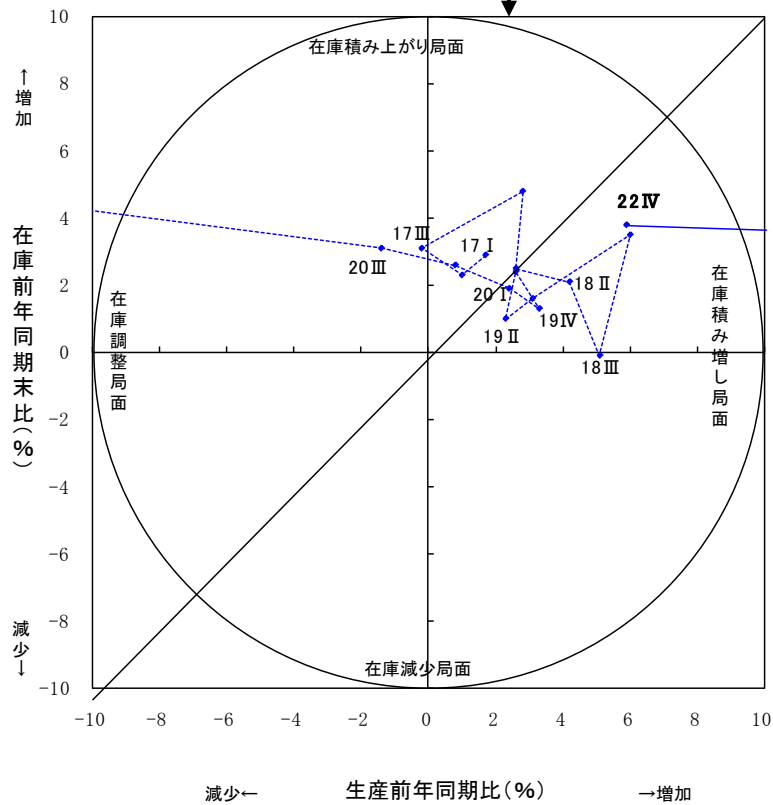


図12 全国の在庫循環の推移(期別)



点線内を拡大



2 業種別動向

(1) 鉄鋼業

① 概況

生産指数は前年比 40.1%（寄与度 1.14）上昇の 84.9 となり、2 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは、3 品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鑄鍛鋼品類）が増加したことによる（表 1）。

在庫指数は前年末比 11.7%（寄与度 0.95）上昇の 74.2 となり、4 年ぶりに上昇した。これは 3 品目中、1 品目（素製品（鋼半製品含））が減少したものの、2 品目（熱間圧延鋼材など）が増加したことによる（表 1）。

表 1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
鉄鋼業	349.5	60.6	84.9	40.1	1.14	1090.7	66.4	74.2	11.7	0.95
素製品(鋼半製品含)	54.7	55.2	76.2	38.0	0.15	793.1	57.7	57.1	▲1.0	▲0.05
熱間圧延鋼材	55.7	100.4	120.0	19.5	0.15	167.4	111.1	146.4	31.8	0.66
鑄鍛鋼品類	239.1	52.5	78.8	50.1	0.84	130.2	61.3	85.6	39.6	0.36

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

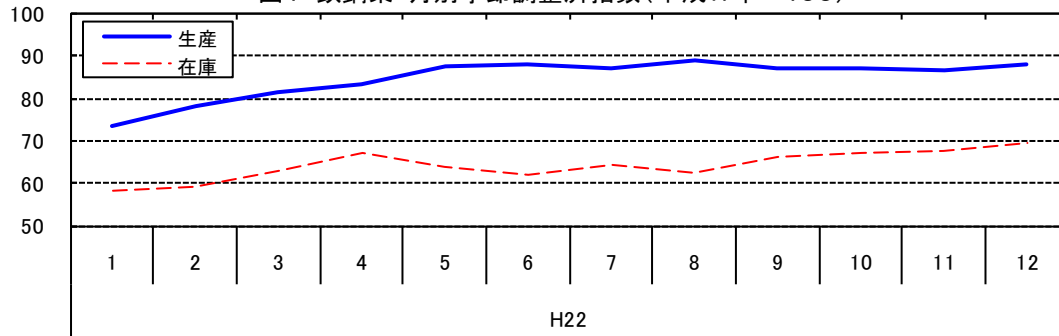
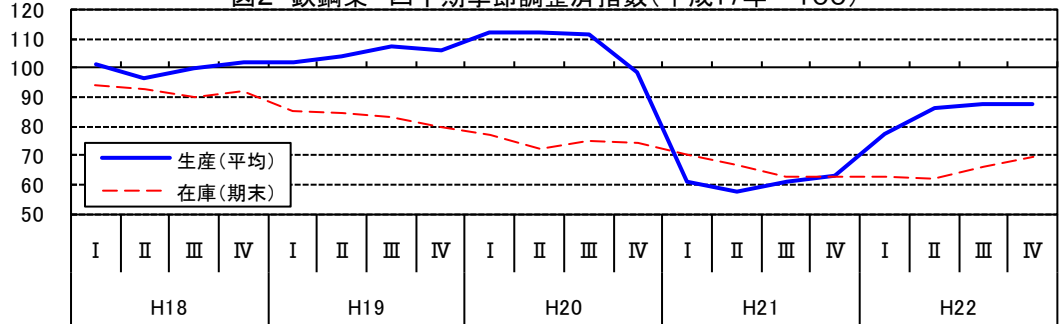


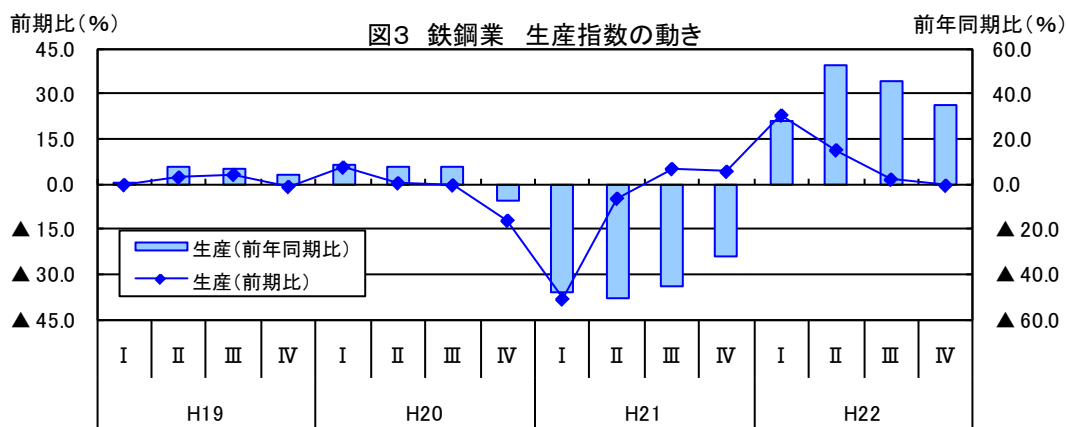
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 22.7%、Ⅱ期 11.2%、Ⅲ期 1.5%と平成 21 年Ⅲ期以降 5 期連続で上昇したが、Ⅳ期は▲0.5%と低下した。

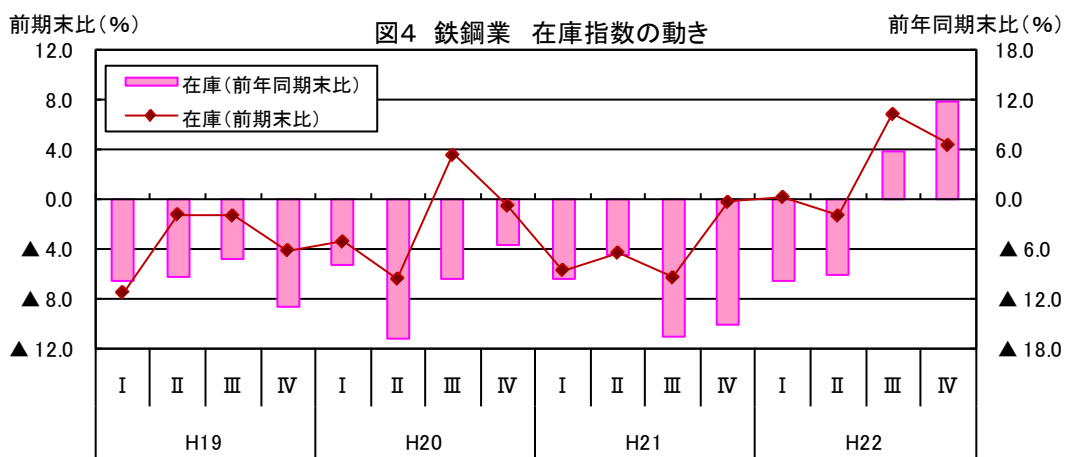
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 28.0%、Ⅱ期 52.7%、Ⅲ期 46.0%、Ⅳ期 35.3%と 4 期連続で前年を上回った（図 3）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は 0.2%と上昇したが、Ⅱ期は▲1.3%と低下し、Ⅲ期 6.9%、Ⅳ期 4.4%と 2 期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲9.8%、Ⅱ期▲9.2%と平成 19 年Ⅰ期以降 14 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期 5.8%、Ⅳ期 11.7%と 2 期連続で前年を上回った（図 4）。



(2) 非鉄金属工業

① 概況

生産指数は前年比 15.1%（寄与度 0.65）上昇の 83.3 となり、4 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 7 品目中、1 品目（非鉄金属地金）が減少したものの、6 品目（アルミニウム二次精錬、伸銅製品、アルミニウム圧延製品、電線ケーブル、非鉄金属鋳物、その他非鉄金属製品）が増加したことによる（表 2）。

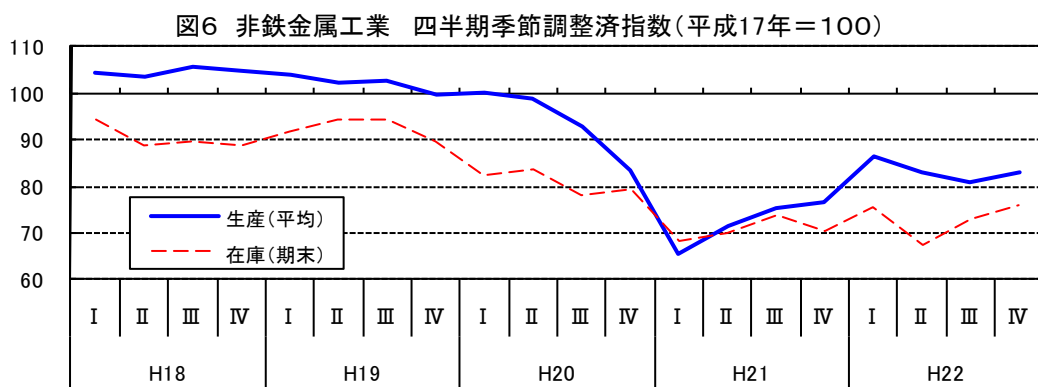
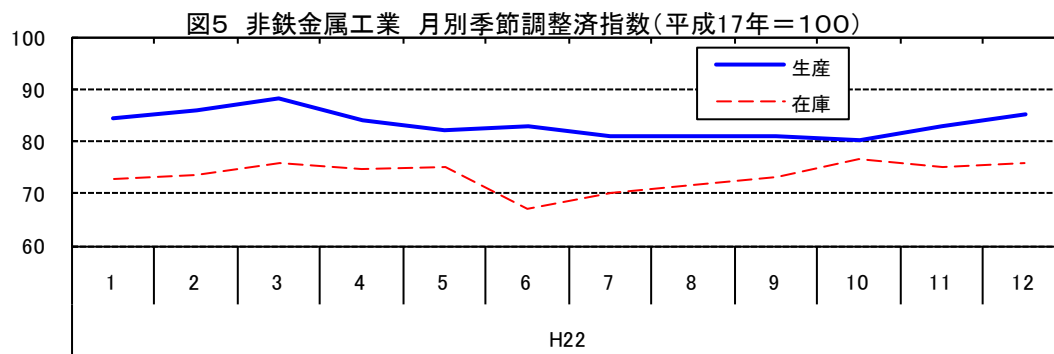
在庫指数は前年末比 7.2%（寄与度 0.46）上昇の 74.0 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、1 品目（アルミニウム二次精錬）が減少したものの、4 品目（アルミニウム圧延製品など）が増加したことによる（表 2）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
非鉄金属工業	443.7	72.4	83.3	15.1	0.65	826.8	69.0	74.0	7.2	0.46
アルミニウム二次精錬	31.4	61.8	69.1	11.8	0.03	197.9	69.0	28.3	▲ 59.0	▲ 0.90
非鉄金属地金	9.8	97.9	96.1	▲ 1.8	▲ 0.00	28.4	119.3	198.0	66.0	0.25
伸銅製品	13.9	72.6	88.0	21.2	0.03	133.4	76.8	84.0	9.4	0.11
アルミニウム圧延製品	310.3	72.0	81.7	13.5	0.40	464.8	63.4	82.8	30.6	1.01
電線ケーブル	16.0	103.6	112.9	9.0	0.02	-	-	-	-	-
非鉄金属鋳物	57.7	68.2	87.6	28.4	0.15	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	4.6	65.0	88.6	36.3	0.01	2.3	117.7	125.1	6.3	0.00

平成17年=100

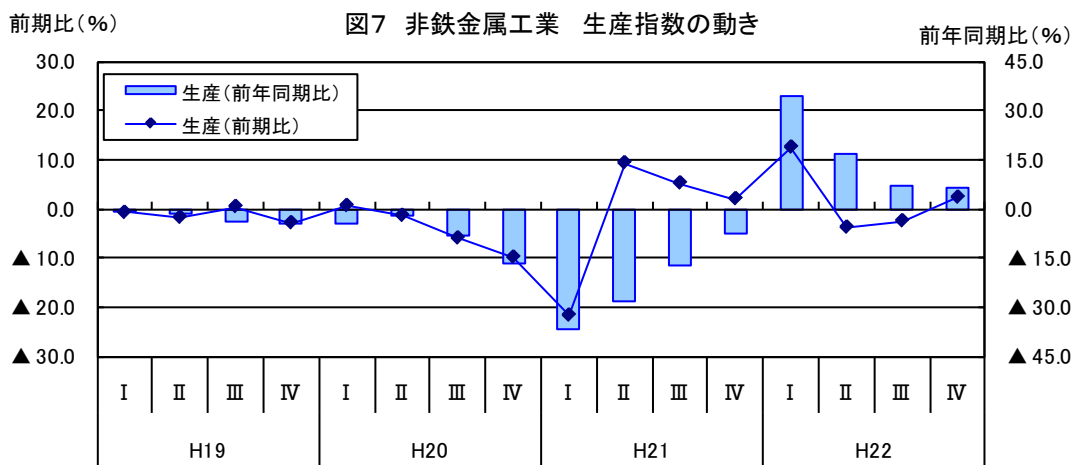
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は12.5%と平成21年Ⅱ期以降4期連続で上昇したが、Ⅱ期▲3.8%、Ⅲ期▲2.5%と2期連続で低下し、Ⅳ期では2.3%と再び上昇した。

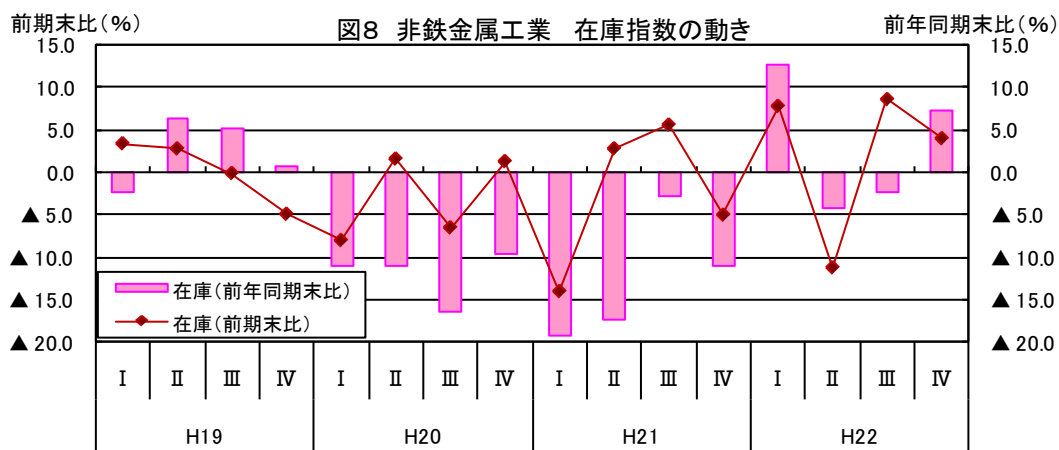
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期34.4%、Ⅱ期16.8%、Ⅲ期6.8%、Ⅳ期6.3%と4期連続で前年を上回った（図7）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は7.8%と上昇し、Ⅱ期は▲11.2%と低下したが、Ⅲ期8.6%、Ⅳ期4.0%と2期連続で上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は12.7%と前年を上回り、Ⅱ期▲4.3%、Ⅲ期▲2.3%と2期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期では7.2%と再び前年を上回った（図8）。



(3) 金属製品工業

① 概況

生産指数は前年比4.0%（寄与度0.47）上昇の80.6となり、9年ぶりに上昇した（統計表第1表）。これは6品目中、2品目（鉄構物、軽金属板製品）が減少したものの、4品目（金属製建具、管継手、ばね、その他金属製品）が増加したことによる（表3）。

在庫指数は前年末比▲18.1%（寄与度▲0.81）低下の48.4となり、2年連続で低下した。これは4品目すべて（金属製建具など）が減少したことによる。（表3）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト (万百分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万百分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
金属製品工業	1134.9	77.5	80.6	4.0	0.47	674.5	59.1	48.4	▲18.1	▲0.81
鉄構物	60.7	118.3	98.7	▲16.6	▲0.16	-	-	-	-	-
金属製建具	838.2	74.4	80.6	8.3	0.70	511.6	48.7	37.7	▲22.6	▲0.63
軽金属板製品	108.8	92.2	68.3	▲25.9	▲0.35	66.9	137.2	128.1	▲6.6	▲0.07
管継手	13.6	66.0	77.9	18.0	0.02	-	-	-	-	-
ばね	11.6	58.3	74.6	28.0	0.03	60.9	26.1	24.0	▲8.0	▲0.01
その他金属製品	102.0	67.0	84.1	25.5	0.23	35.1	118.7	95.3	▲19.7	▲0.09

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

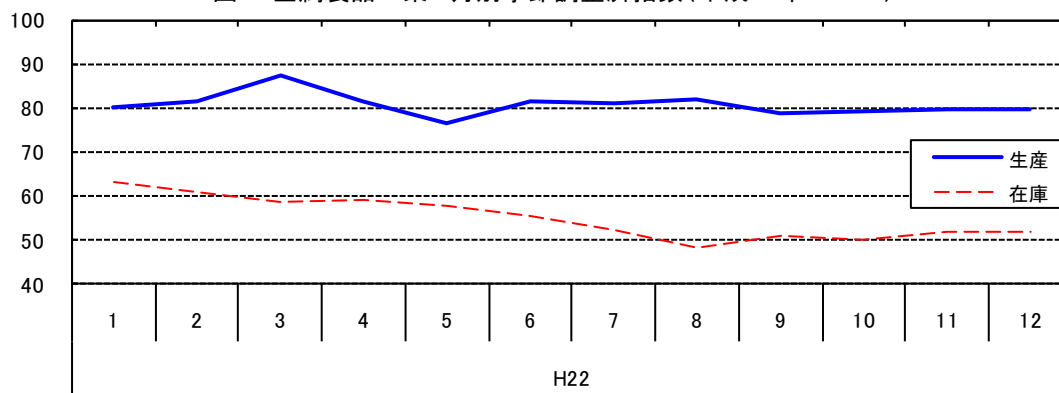
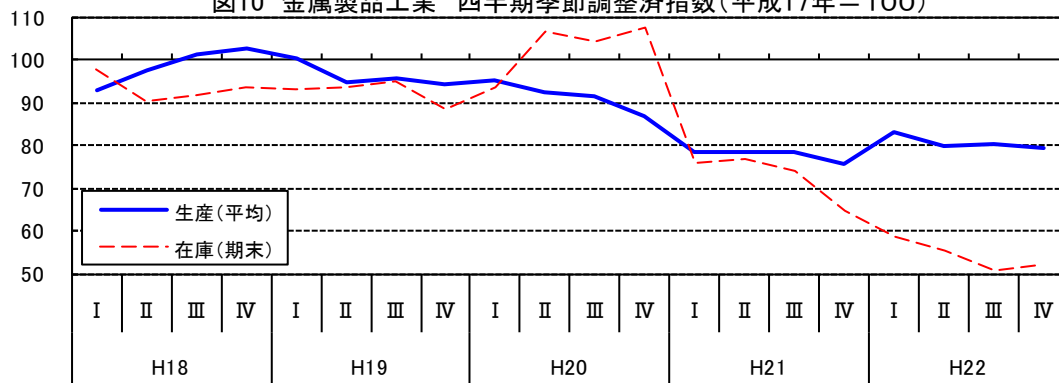


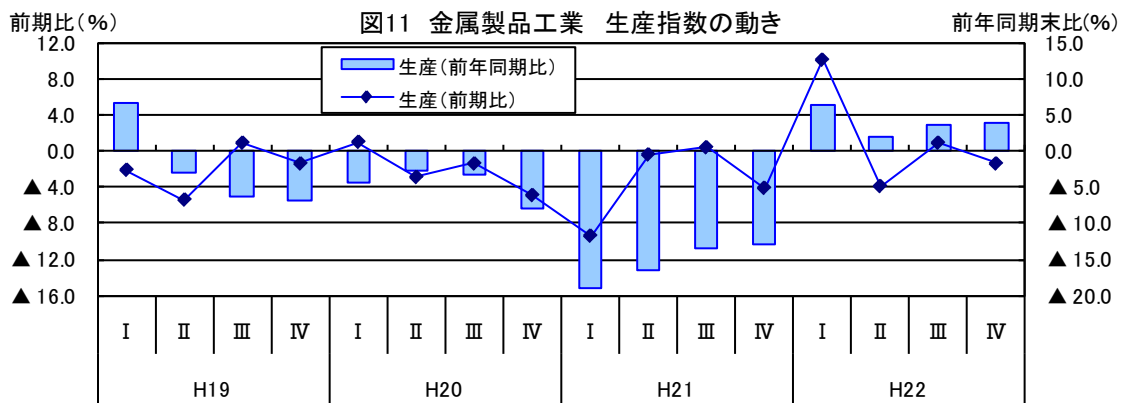
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期は10.1%と上昇し、Ⅱ期は▲3.9%と低下したが、Ⅲ期では0.9%と再び上昇し、Ⅳ期では▲1.4%と再び低下した。

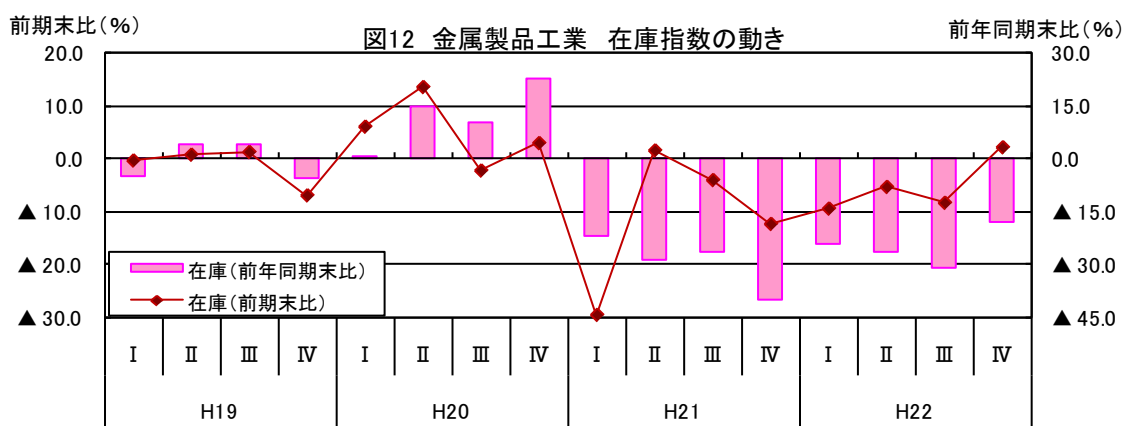
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期6.4%、Ⅱ期2.0%、Ⅲ期3.6%、Ⅳ期4.0%と4期連続で前年を上回った(図11)。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲9.4%、Ⅱ期▲5.3%、Ⅲ期▲8.3%と平成21年Ⅲ期以降5期連続で低下したが、Ⅳ期は2.2%と上昇した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期▲23.9%、Ⅱ期▲26.6%、Ⅲ期▲31.0%、Ⅳ期▲18.1%と平成21年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った(図12)。



(4) 一般機械工業

① 概況

生産指数は前年比 89.5%（寄与度 7.15）上昇の 92.3 となり、3 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 7 品目すべて（油圧機器、軸受、ロボット・産業機械、金属工作機械、金型、機械工具、その他一般機械・部品）が増加したことによる（表 4）。

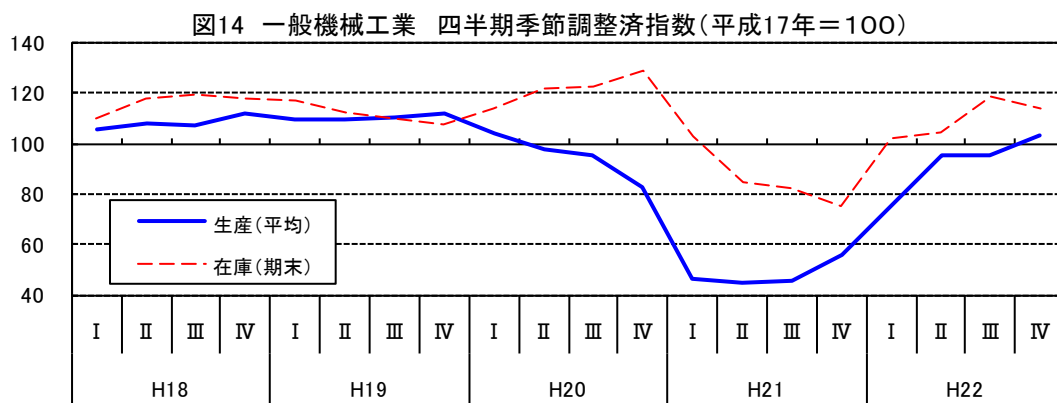
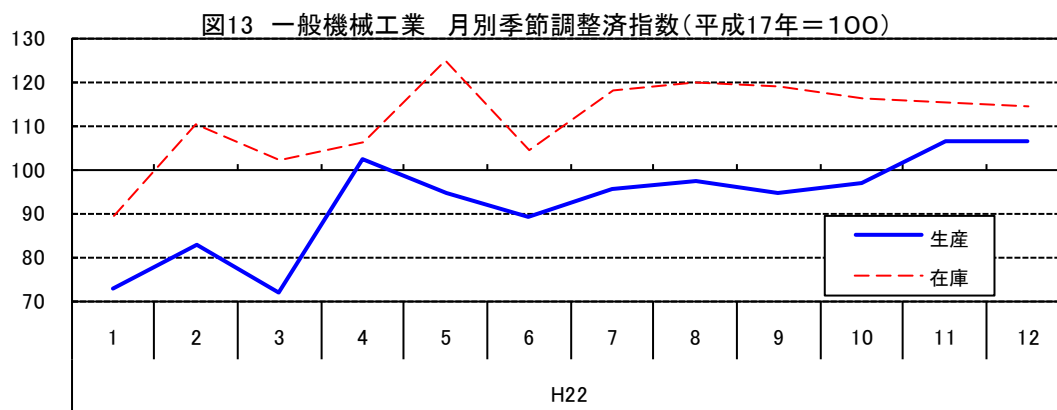
在庫指数は前年末比 44.5%（寄与度 2.56）上昇の 110.8 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、1 品目（金属工作機械）が減少したものの、4 品目（軸受など）が増加したことによる（表 4）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
一般機械工業	1225.6	48.7	92.3	89.5	7.15	668.5	76.7	110.8	44.5	2.56
油圧機器	77.1	25.9	65.3	152.1	0.41	45.1	145.8	278.2	90.8	0.67
軸受	273.6	67.6	101.6	50.3	1.25	319.1	68.6	102.2	49.0	1.20
ロボット・産業機械	326.7	31.0	92.6	198.7	2.69	-	-	-	-	-
金属工作機械	274.7	59.9	113.9	90.2	1.99	27.9	113.5	107.8	▲ 5.0	▲ 0.02
金型	83.4	50.7	56.6	11.6	0.07	-	-	-	-	-
機械工具	156.1	43.3	77.1	78.1	0.71	226.7	52.0	70.6	35.8	0.47
その他一般機械・部品	34.0	46.8	57.1	22.0	0.05	49.7	158.7	199.4	25.6	0.23

平成17年=100

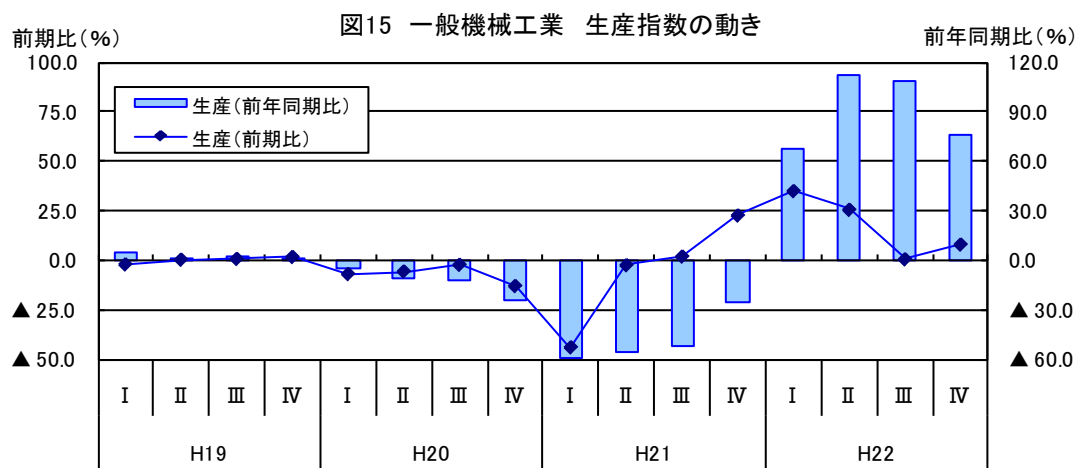
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期 35.1% Ⅱ期 25.6%、Ⅲ期 0.4%、Ⅳ期 7.9%と平成 21 年Ⅲ期以降 6 期連続で上昇した。

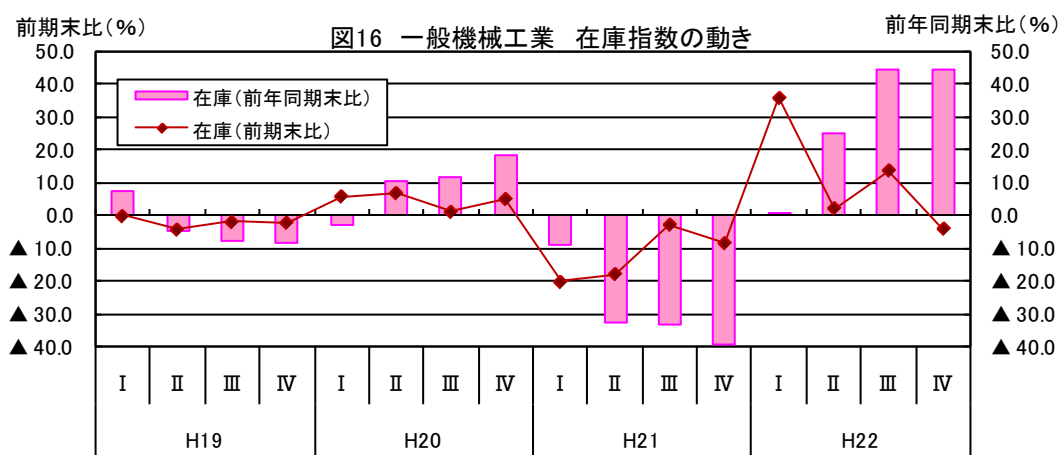
また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期 67.3%、Ⅱ期 112.5%、Ⅲ期 108.2%、Ⅳ期 75.5%と 4 期連続で前年を上回った(図 15)。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、Ⅰ期 35.7%、Ⅱ期 2.2% Ⅲ期 13.7%と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期は▲4.0%と低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、Ⅰ期 0.4%、Ⅱ期 25.0%、Ⅲ期 44.1%、Ⅳ期 44.5%と 4 期連続で前年を上回った(図 16)。



(5) 電気機械工業

① 概況

生産指数は前年比 22.2%（寄与度 3.51）上昇の 68.3 となり、4 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、1 品目（回転・静止電気機器）が減少したものの、5 品目（その他電気機械、半導体、集積回路、抵抗器、電子部品）が増加したことによる（表 5）。

在庫指数は前年末比▲9.1%（寄与度▲0.13）低下の 292.2 となり、7 年ぶりに低下した。これは 2 品目中、1 品目（半導体）が増加したものの、1 品目（回転・静止電気機器）が減少したことによる（表 5）。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
電気機械工業	2112.5	55.9	68.3	22.2	3.51	38.5	321.3	292.2	▲ 9.1	▲ 0.13
回転・静止電気機器	66.7	77.1	73.6	▲ 4.5	▲ 0.03	28.6	204.0	158.5	▲ 22.3	▲ 0.15
その他電気機械	44.3	84.9	88.1	3.8	0.02	-	-	-	-	-
半導体	46.5	33.5	40.9	22.1	0.05	9.9	660.0	678.4	2.8	0.02
集積回路	1359.8	45.9	52.4	14.2	1.18	-	-	-	-	-
抵抗器	61.7	87.8	116.2	32.3	0.23	-	-	-	-	-
電子部品	533.5	74.6	103.2	38.3	2.04	-	-	-	-	-

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

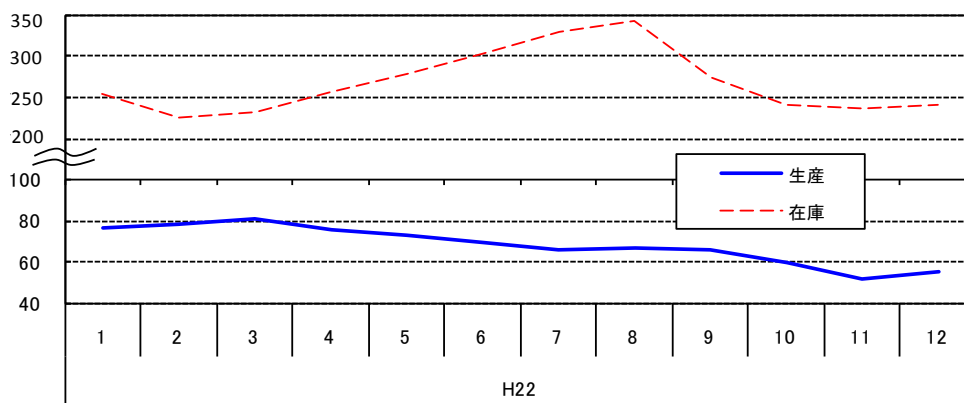
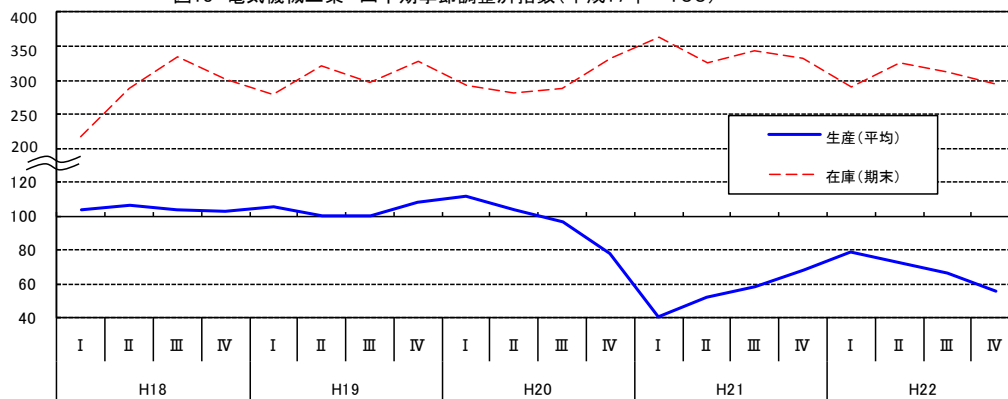


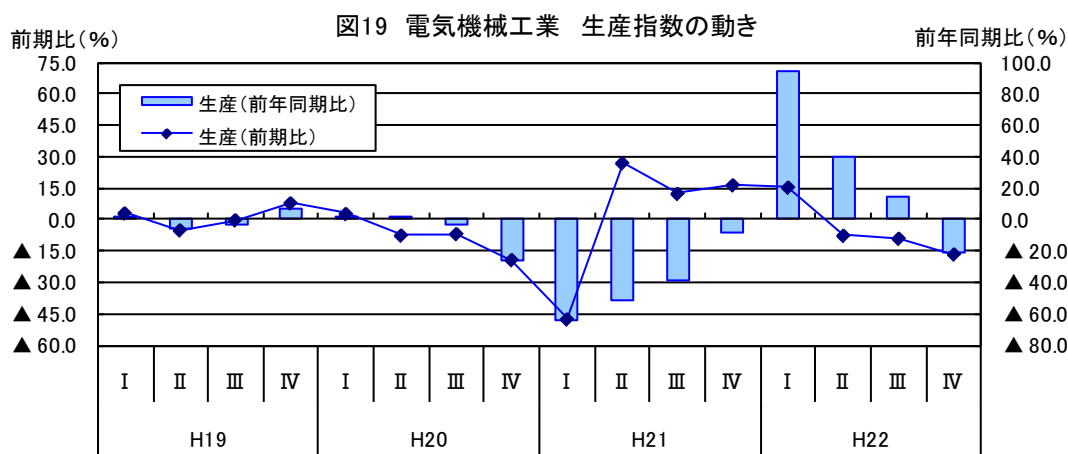
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は15.5%と平成21年Ⅱ期以降4期連続で上昇したが、Ⅱ期▲7.5%、Ⅲ期▲8.9%、Ⅳ期▲16.4%と3期連続で低下した。

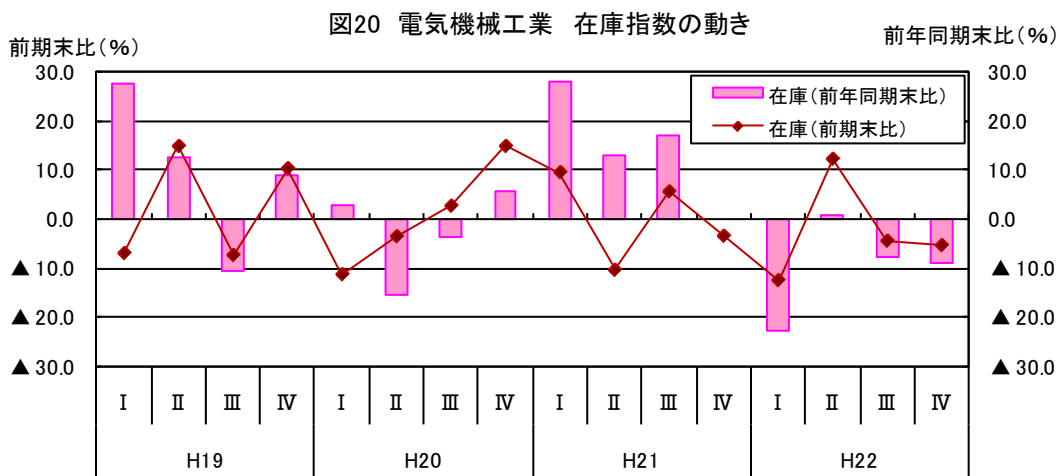
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期94.9%、Ⅱ期40.3%、Ⅲ期14.3%と3期連続で前年を上回ったが、Ⅳ期は▲21.2%と前年を下回った（図19）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲12.4%と平成21年Ⅳ期以降2期連続で低下し、Ⅱ期では12.2%と上昇したが、Ⅲ期▲4.4%、Ⅳ期▲5.3%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）では、Ⅰ期は▲22.8%と前年を下回り、Ⅱ期では0.8%と前年を上回ったが、Ⅲ期▲7.9%、Ⅳ期▲9.1%と再び前年を下回った（図20）。



(6) 輸送機械工業

① 概況

生産指数は前年比 19.9% (寄与度 0.62) 上昇の 81.4 となり、4 年ぶりに上昇した (統計表第 1 表)。これは 3 品目すべて (自動車ボデー、自動車部品、二輪自動車部品) が増加したことによる (表 6)。

在庫指数は前年末比 44.5% (寄与度 0.87) 上昇の 162.0 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 2 品目すべて (二輪自動車部品など) が増加したことによる (表 6)。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
輸送機械工業	342.4	67.9	81.4	19.9	0.62	155.9	112.1	162.0	44.5	0.87
自動車ボデー	245.5	62.2	74.5	19.8	0.40	-	-	-	-	-
自動車部品	74.1	84.0	100.0	19.0	0.16	133.4	101.3	103.1	1.8	0.03
二輪自動車部品	22.8	76.5	96.3	25.9	0.06	22.5	176.4	511.3	189.9	0.85

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図21 輸送機械工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

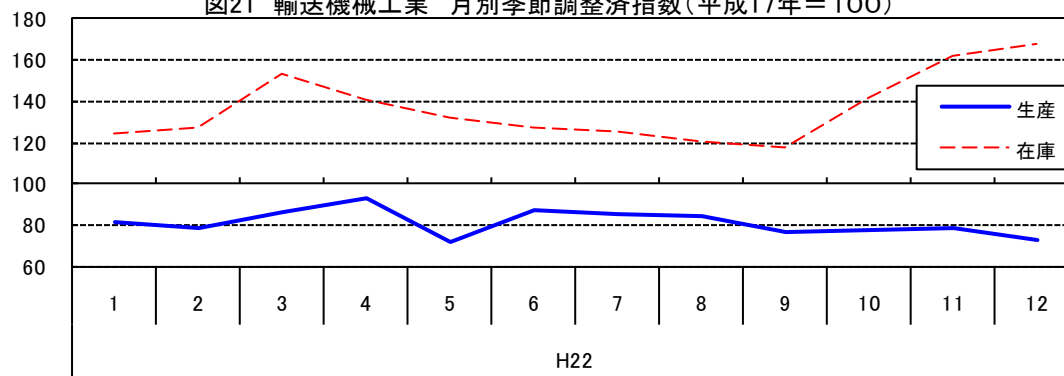
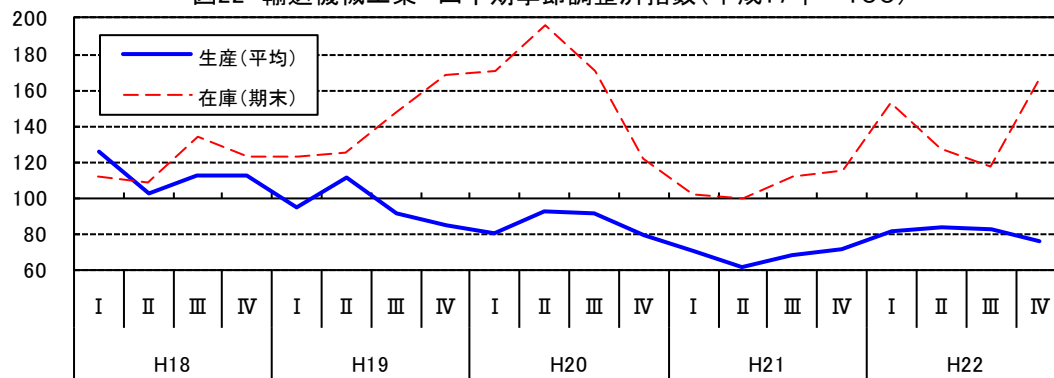


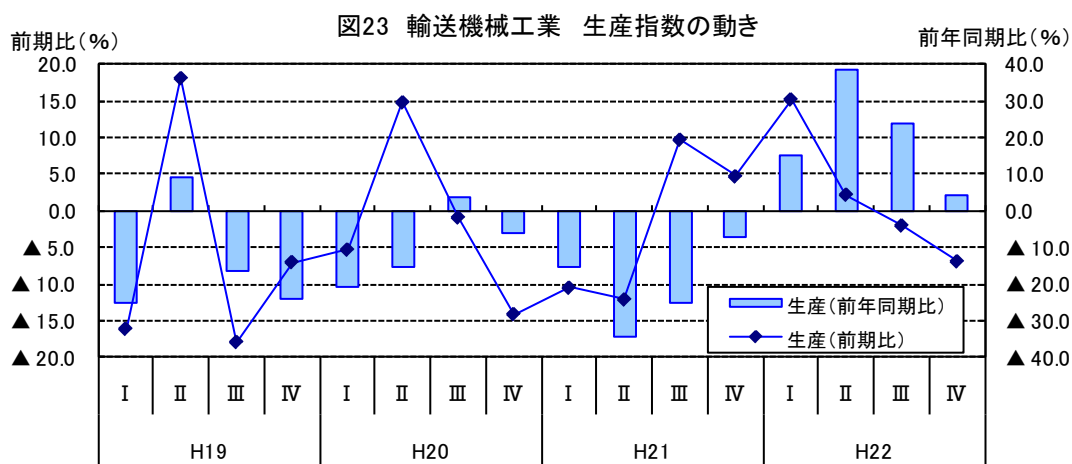
図22 輸送機械工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 15.2%、Ⅱ期 2.2%と平成 21 年Ⅲ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅲ期▲2.0%、Ⅳ期▲6.9%と 2 期連続で低下した。

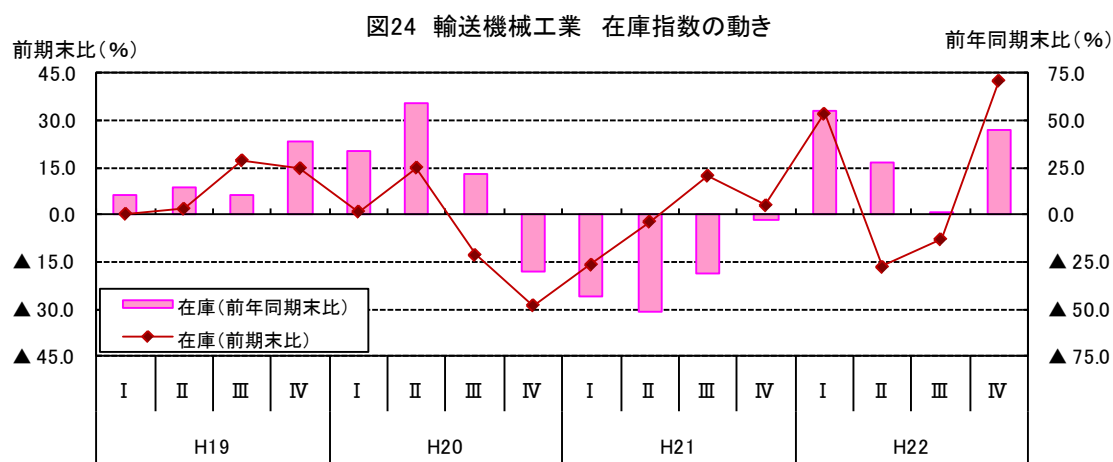
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 15.2%、Ⅱ期 38.4%、Ⅲ期 23.8%、Ⅳ期 4.3%と 4 期連続で前年を上回った（図 23）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は 32.1%と平成 21 年Ⅲ期以降 3 期連続で上昇し、Ⅱ期▲16.6%、Ⅲ期▲7.8%と 2 期連続で低下したが、Ⅳ期では 42.6%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期 55.3%、Ⅱ期 27.9%、Ⅲ期 0.6%、Ⅳ期 44.5%と 4 期連続で前年を上回った。（図 24）。



(7) 窯業・土石製品工業

① 概況

生産指数は前年比 19.5%（寄与度 0.45）上昇の 87.8 となり、5 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 6 品目中、1 品目（セメント製品）が減少したものの、5 品目（ガラス製品、生コンクリート、炭素製品、ファインセラミックス、その他窯業・土石製品）が増加したことによる（表 7）。

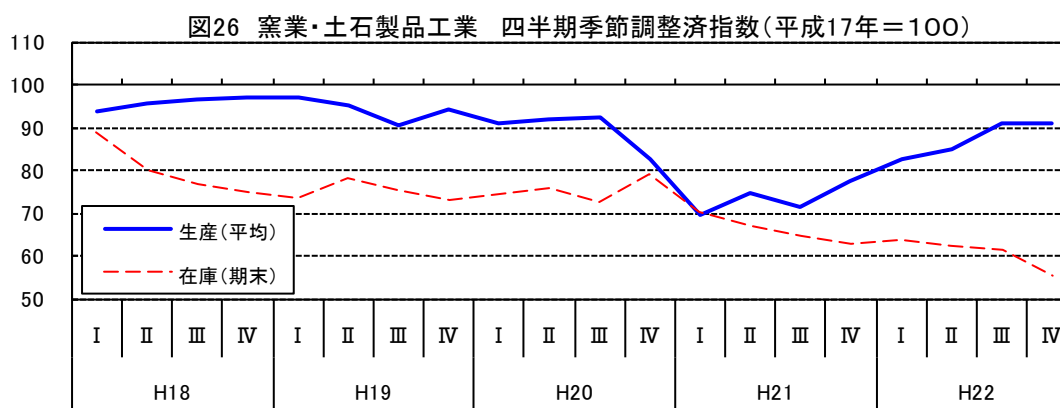
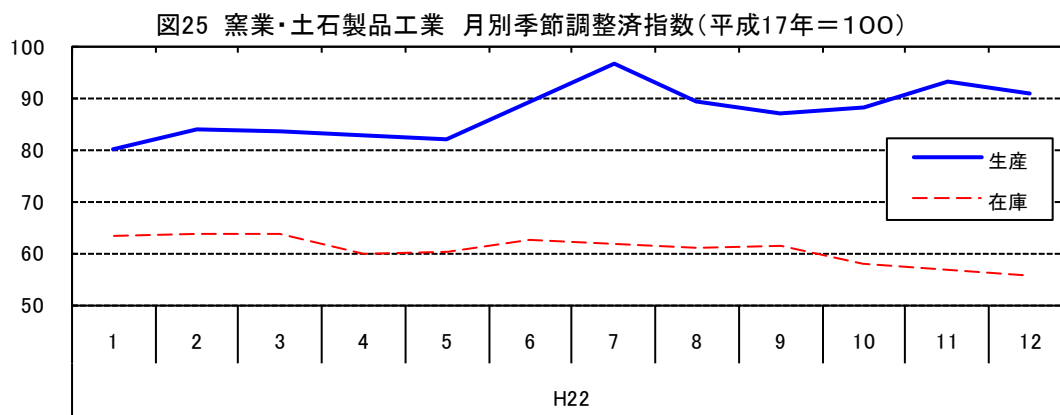
在庫指数は前年末比▲13.0%（寄与度▲0.37）低下の 50.7 となり、2 年連続で低下した。これは 5 品目中、1 品目（ガラス製品）が増加したものの、4 品目（セメント製品など）が減少したことによる（表 7）。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
窯業・土石製品工業	236.9	73.5	87.8	19.5	0.45	433.0	58.3	50.7	▲13.0	▲0.37
ガラス製品	62.5	64.7	78.2	20.9	0.11	15.8	62.3	109.7	76.1	0.08
生コンクリート	59.6	103.6	116.0	12.0	0.10	-	-	-	-	-
セメント製品	18.3	80.3	71.2	▲11.3	▲0.02	218.3	68.7	60.1	▲12.5	▲0.21
炭素製品	64.6	66.0	90.5	37.1	0.21	58.1	50.3	46.0	▲8.5	▲0.03
ファインセラミックス	5.8	62.1	88.7	42.8	0.02	7.0	62.7	40.3	▲35.7	▲0.02
その他窯業・土石製品	26.1	42.4	50.8	19.8	0.03	133.8	44.1	31.1	▲29.5	▲0.20

平成17年=100

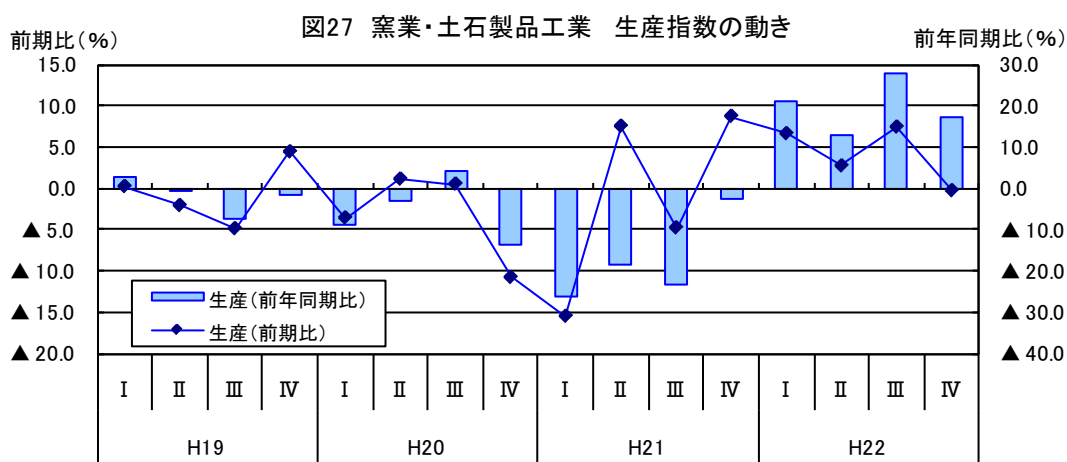
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 6.6%、Ⅱ期 2.7%、Ⅲ期 7.4%と平成 21 年Ⅳ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲0.3%低下した。

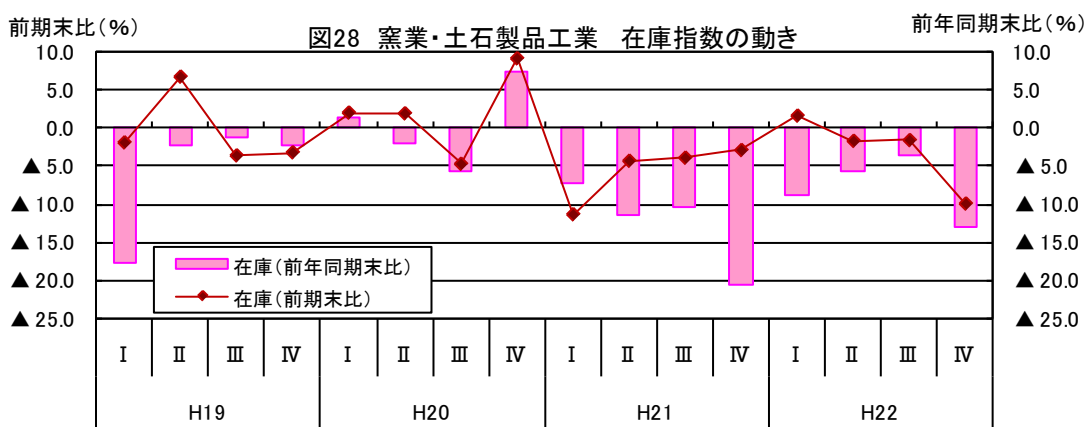
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 20.9%、Ⅱ期 12.9%、Ⅲ期 27.6%、Ⅳ期 17.4%と 4 期連続で前年を上回った（図 27）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は 1.6%と上昇したが、Ⅱ期▲1.7%、Ⅲ期▲1.6%、Ⅳ期▲9.9%と 3 期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲8.7%、Ⅱ期▲5.8%、Ⅲ期▲3.7%、Ⅳ期▲13.0%と平成 21 年Ⅰ期以降 8 期連続で前年を下回った（図 28）。



(8) 化学工業

① 概況

生産指数は前年比 4.6%（寄与度 1.42）上昇の 118.7 となり、2 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 8 品目すべて（化学肥料、ソーダ工業品、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、接着剤、医薬品原末・原液、医薬品）が増加したことによる（表 8）。

在庫指数は前年末比▲25.3%（寄与度▲9.47）低下の 98.4 となり、2 年ぶりに低下した。これは 8 品目中、1 品目（接着剤）が増加したものの、7 品目（医薬品など）が減少したことによる（表 8）。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
化学工業	2034.0	113.5	118.7	4.6	1.42	2527.2	131.8	98.4	▲ 25.3	▲ 9.47
化学肥料	198.4	82.2	88.7	7.9	0.17	110.0	72.5	66.9	▲ 7.7	▲ 0.07
ソーダ工業品	30.8	88.3	92.9	5.2	0.02	6.8	111.9	104.8	▲ 6.3	▲ 0.01
無機化学製品	42.3	64.7	71.1	9.9	0.04	26.6	76.7	72.4	▲ 5.6	▲ 0.01
プラスチック樹脂	251.1	54.8	58.2	6.2	0.11	291.9	73.9	73.8	▲ 0.1	▲ 0.00
その他化学製品	190.0	89.5	92.5	3.4	0.08	276.6	108.1	89.0	▲ 17.7	▲ 0.59
接着剤	100.0	75.3	90.3	19.9	0.20	133.3	74.9	85.8	14.6	0.16
医薬品原末・原液	132.6	101.7	106.8	5.0	0.09	344.9	90.1	79.5	▲ 11.8	▲ 0.41
医薬品	1088.8	144.5	149.3	3.3	0.70	1337.1	171.9	114.9	▲ 33.2	▲ 8.55

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

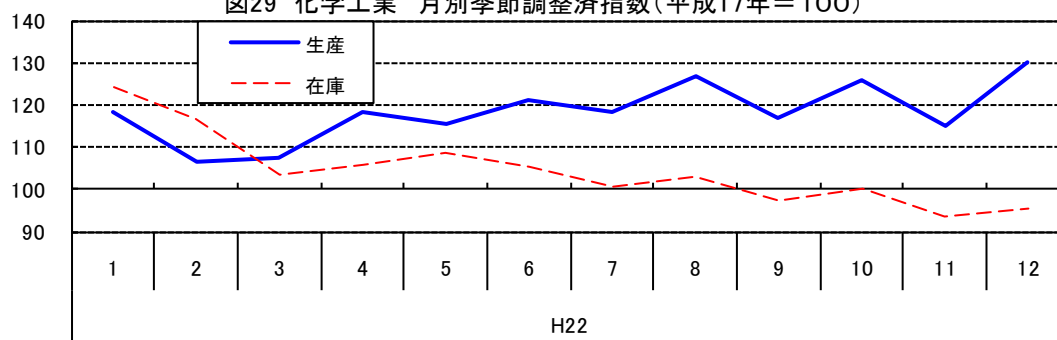
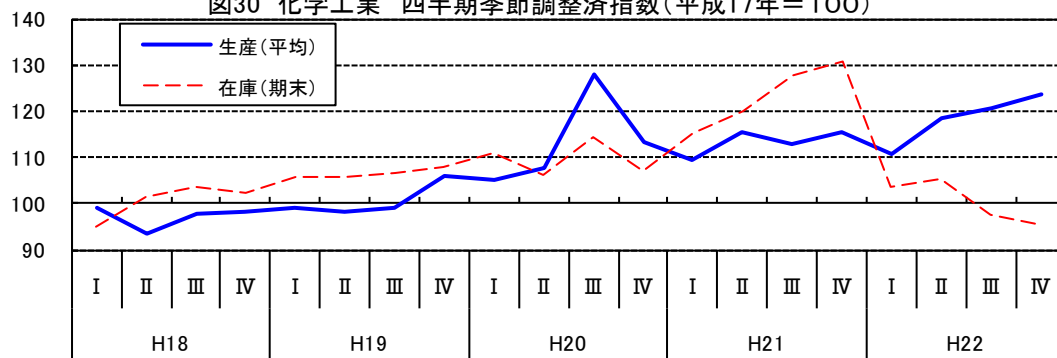


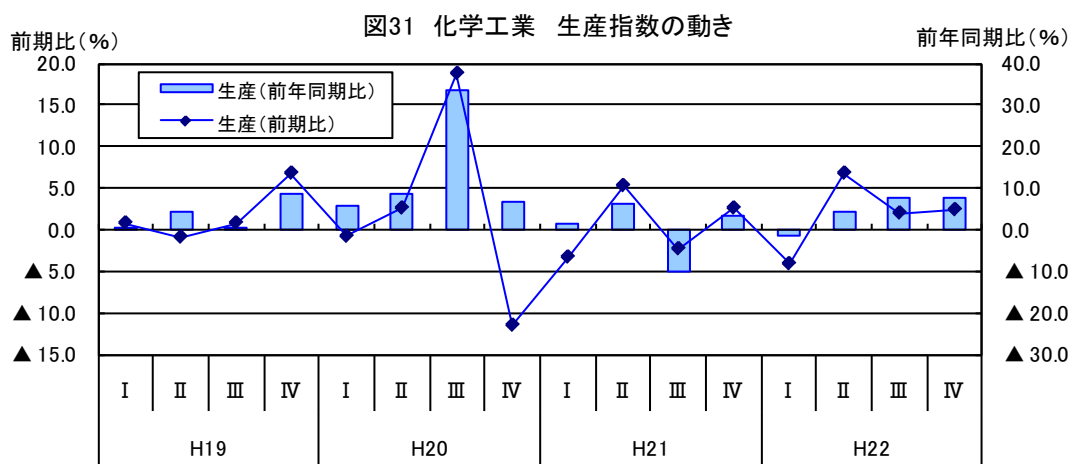
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲4.1%と低下したが、Ⅱ期6.8%、Ⅲ期2.0%、Ⅳ期2.4%と3期連続で上昇した。

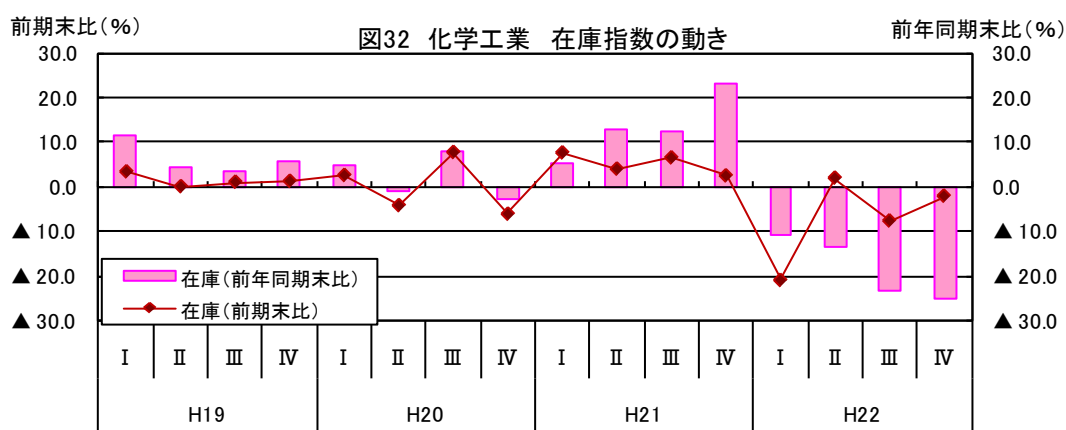
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期は▲1.4%と前年を下回ったが、Ⅱ期4.2%、Ⅲ期7.4%、Ⅳ期7.8%と3期連続で前年を上回った。（図31）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲20.8%と低下し、Ⅱ期は1.9%と上昇したが、Ⅲ期▲7.6%、Ⅳ期▲2.1%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲11.0%、Ⅱ期▲13.7%、Ⅲ期▲23.4%、Ⅳ期▲25.3%と4期連続で前年を下回った。（図32）。



(9) プラスチック製品工業

① 概況

生産指数は前年比 13.4% (寄与度 0.53) 上昇の 71.3 となり、5 年ぶりに上昇した (統計表第 1 表)。これは 6 品目すべて (フィルム・シート、機械器具部品、容器、日用品雑貨、建材・強化製品、その他プラスチック製品) が増加したことによる (表 9)。

在庫指数は前年末比 0.7% (寄与度 0.06) 上昇の 85.5 となり、2 年ぶりに上昇した。これは 6 品目中、3 品目 (機械器具部品など) が減少したものの、3 品目 (その他プラスチック製品など) が増加したことによる (表 9)。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成17年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
プラスチック製品工業	471.9	62.9	71.3	13.4	0.53	891.3	84.9	85.5	0.7	0.06
フィルム・シート	27.9	71.2	77.0	8.1	0.02	68.5	91.0	94.9	4.3	0.03
機械器具部品	241.8	52.4	62.5	19.3	0.33	118.6	58.2	48.2	▲ 17.2	▲ 0.13
容器	21.0	87.6	91.9	4.9	0.01	70.1	115.9	112.1	▲ 3.3	▲ 0.03
日用品雑貨	54.5	88.2	89.8	1.8	0.01	325.4	96.1	94.6	▲ 1.6	▲ 0.05
建材・強化製品	37.5	50.2	56.5	12.5	0.03	18.4	36.8	41.6	13.0	0.01
その他プラスチック製品	89.2	72.5	83.2	14.8	0.13	290.3	77.4	84.8	9.6	0.24

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

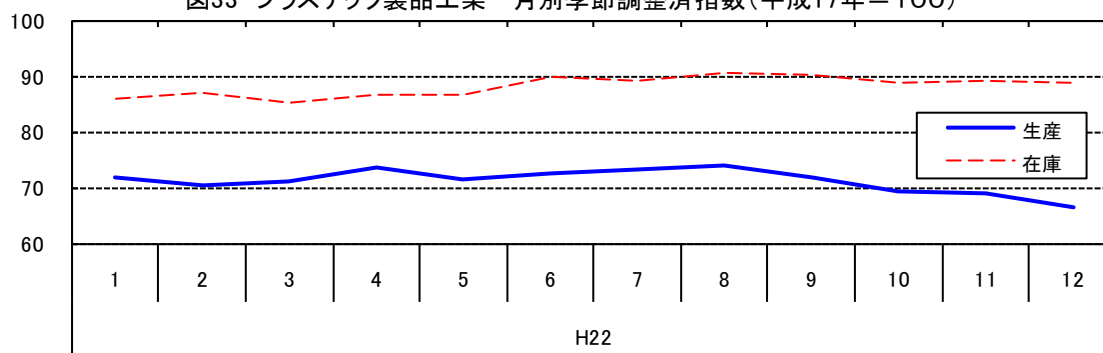
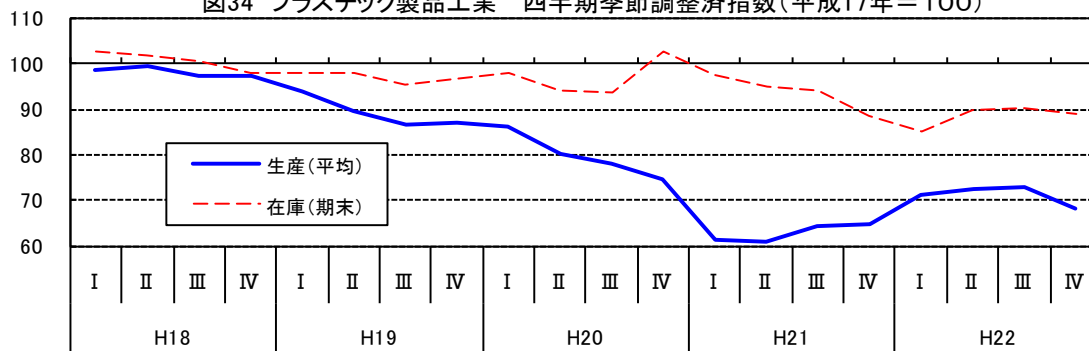


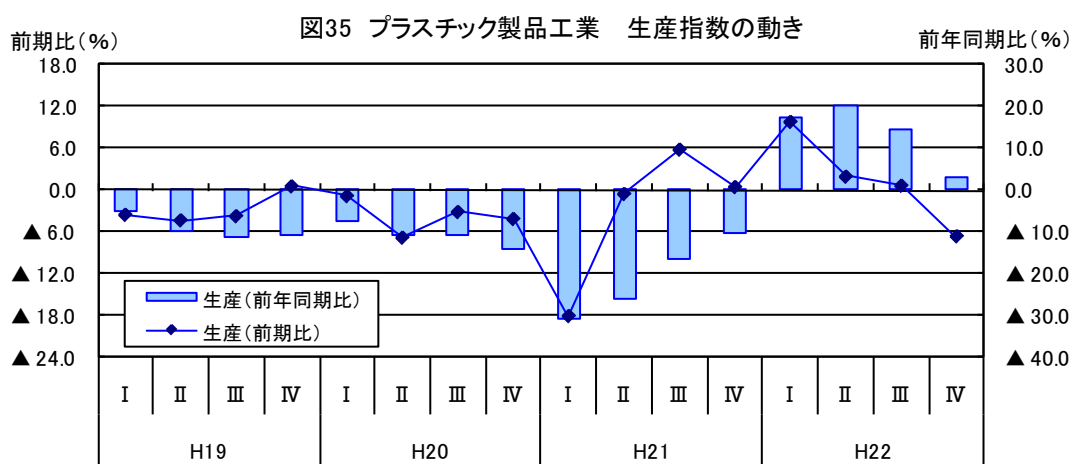
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 9.9%、Ⅱ期 2.0%、Ⅲ期 0.7%と平成 21 年Ⅲ期以降 5 期連続で上昇したが、Ⅳ期は▲6.6%と低下した。

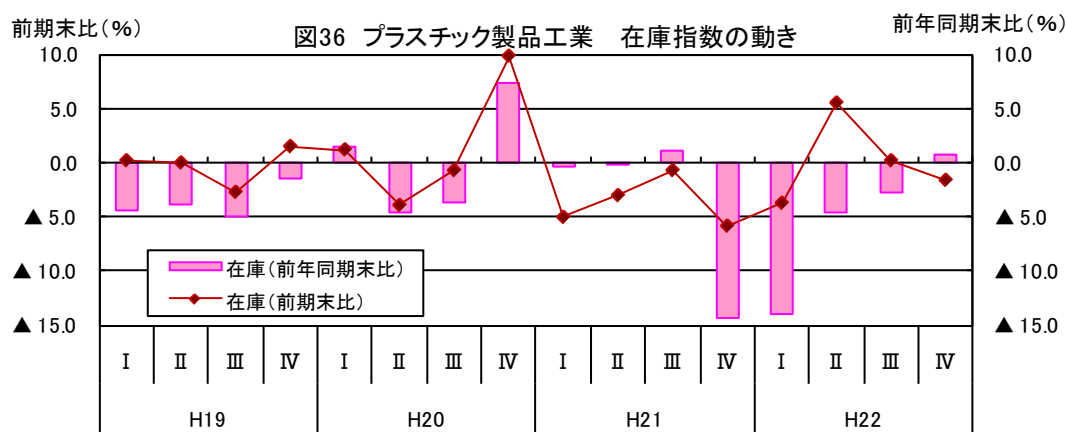
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 17.3%、Ⅱ期 20.1%、Ⅲ期 14.7%、Ⅳ期 3.0%と 4 期連続で前年を上回った（図 35）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲3.7%と低下し、Ⅱ期 5.5%、Ⅲ期 0.2%と 2 期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲1.6%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲13.9%、Ⅱ期▲4.6%、Ⅲ期▲2.7%と平成 21 年Ⅳ期以降 4 期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期では 0.7%と前年を上回った（図 36）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

① 概況

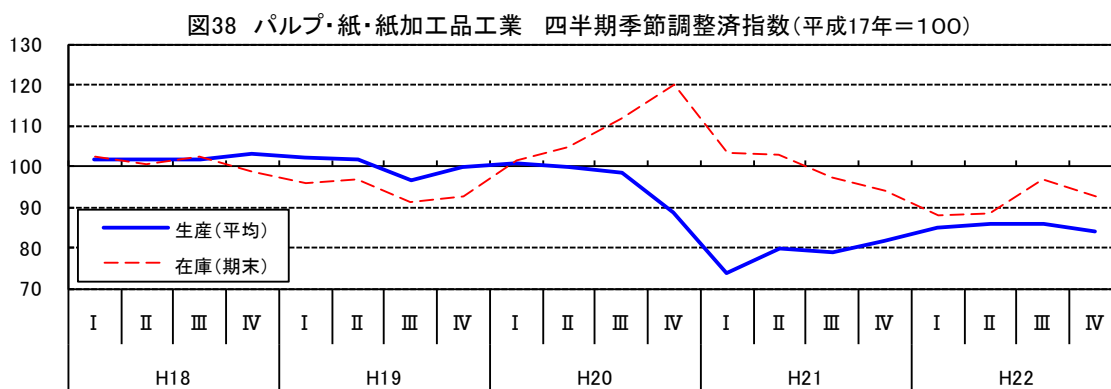
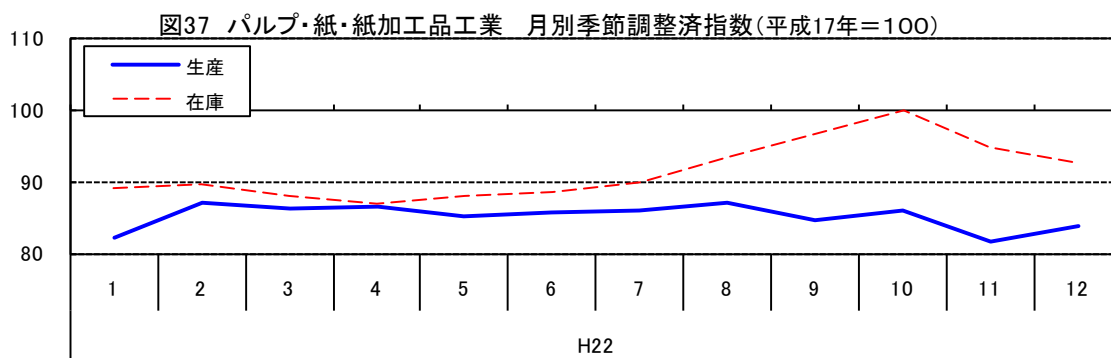
生産指数は前年比 8.3%（寄与度 0.41）上昇の 85.0 となり、4 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 5 品目すべて（パルプ、紙、板紙、ダンボール・箱・袋、その他紙製品）が増加したことによる（表 10）。

在庫指数は前年末比 0.0%（寄与度 0.00）の 94.2 で横ばいとなった。これは 5 品目中、1 品目（その他紙製品）が増加したものの、3 品目（紙など）が減少したことによる。また、1 品目（パルプ）が横ばいとなった（表 10）。

表 10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
		平成17年=100					平成17年=100			
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	78.5	85.0	8.3	0.41	911.5	94.2	94.2	0.0	0.00
パルプ	40.5	69.8	80.4	15.2	0.06	10.9	3.0	3.0	0.0	0.00
紙	185.6	63.4	72.4	14.2	0.22	632.4	79.4	77.5	▲ 2.4	▲ 0.13
板紙	33.9	83.4	90.0	7.9	0.03	128.3	112.6	103.5	▲ 8.1	▲ 0.13
ダンボール・箱・袋	185.3	92.7	96.4	4.0	0.09	93.9	107.4	98.6	▲ 8.2	▲ 0.09
その他紙製品	22.3	93.4	96.6	3.4	0.01	46.0	242.0	309.7	28.0	0.35

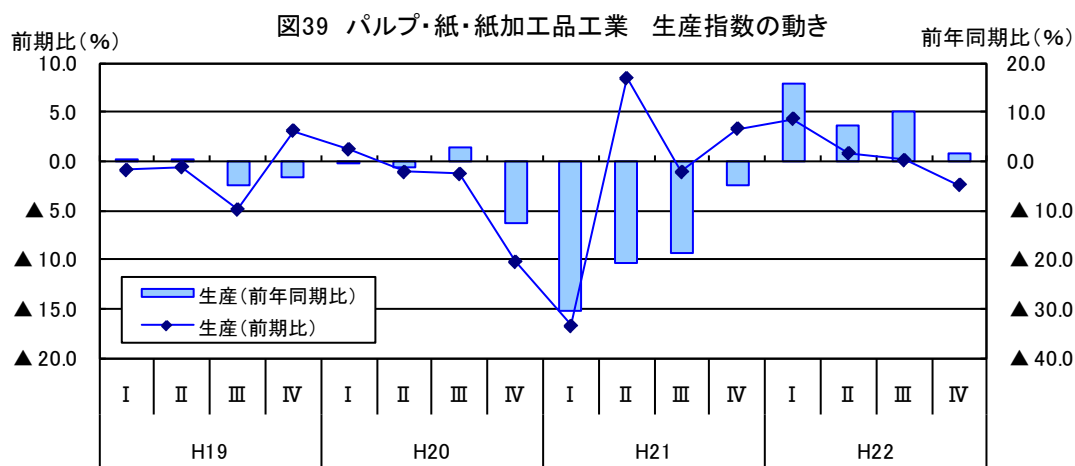
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 4.3%、Ⅱ期 0.8%、Ⅲ期 0.1%と平成 21 年Ⅳ期以降 4 期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲2.4%と低下した。

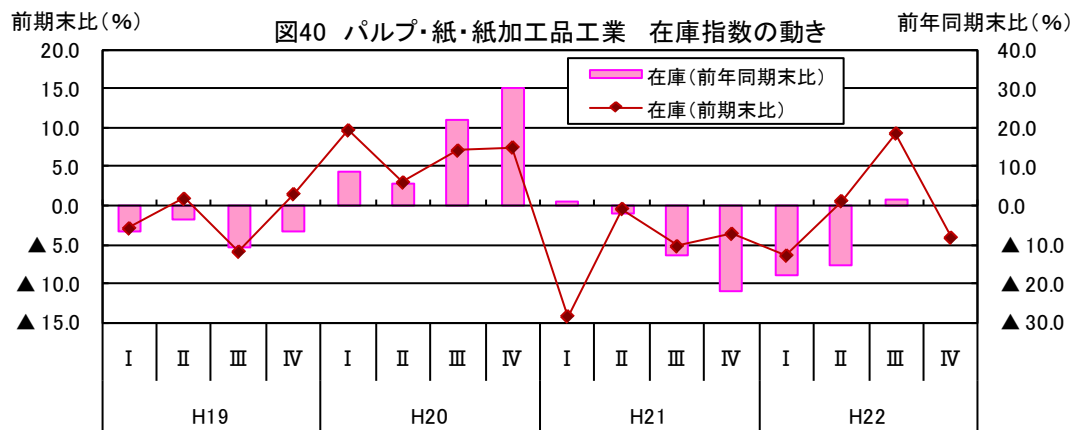
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 15.8%、Ⅱ期 7.4%、Ⅲ期 10.2%、Ⅳ期 1.5%と 4 期連続で前年を上回った（図 39）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は▲6.4%と平成 21 年Ⅰ期以降 5 期連続で低下し、Ⅱ期 0.6%、Ⅲ期 9.3%と 2 期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲4.1%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は▲18.1%、Ⅱ期▲15.2%と平成 21 年Ⅱ期以降 5 期連続で前年を下回ったが、Ⅲ期は 1.6%と前年を上回り、Ⅳ期は 0.0%と前年比横ばいとなった（図 40）。



(11) 繊維工業

① 概況

生産指数は前年比 3.1%（寄与度 0.09）上昇の 62.8 となり、6 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 5 品目中、2 品目（化繊・紡績、織物）が減少したものの、3 品目（染色整理、衣類、その他繊維製品）が増加したことによる（表 11）。

在庫指数は前年末比 19.2%（寄与度 0.71）上昇の 75.6 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、1 品目（化繊・紡績）が減少したものの、4 品目（衣類など）が増加したことによる（表 11）。

表 11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万百分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万百分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
		繊維工業	358.4				60.9	62.8		
化繊・紡績	135.7	56.0	54.9	▲ 2.0	▲ 0.02	239.3	69.1	44.8	▲ 35.2	▲ 0.65
織物	84.6	69.7	66.3	▲ 4.9	▲ 0.04	35.7	78.4	91.8	17.1	0.05
染色整理	47.1	62.5	70.8	13.3	0.05	49.3	60.4	71.2	17.9	0.06
衣類	25.0	72.4	74.4	2.8	0.01	59.6	120.0	293.1	144.3	1.16
その他繊維製品	66.0	54.2	64.3	18.6	0.09	137.3	26.2	32.1	22.5	0.09

平成17年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図 41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成17年=100)

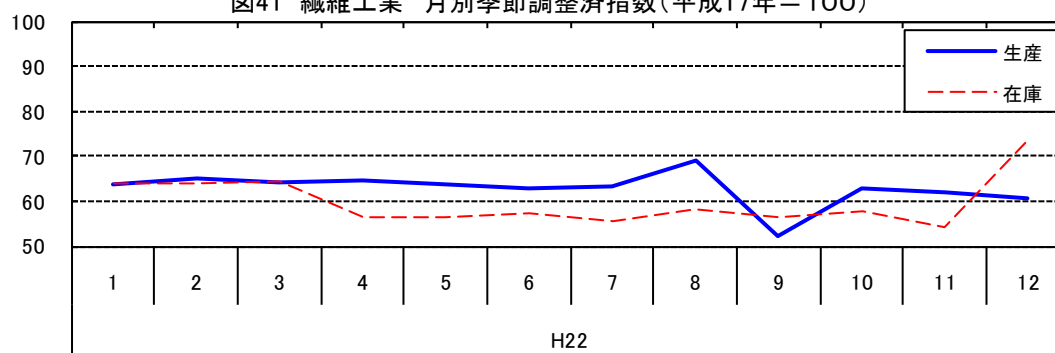
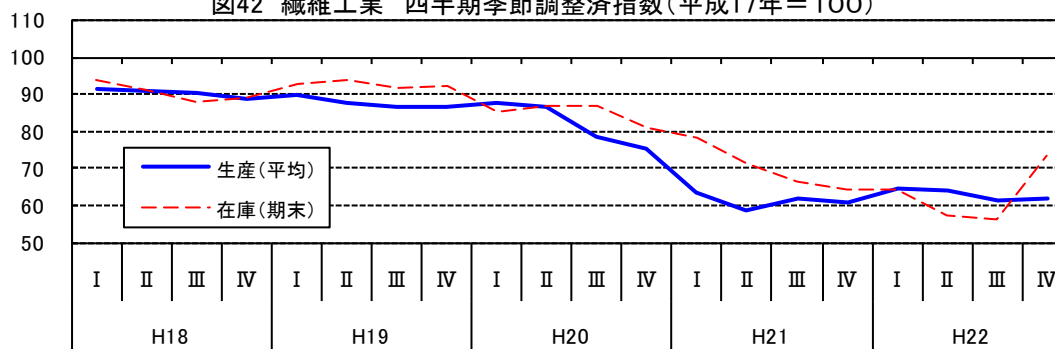


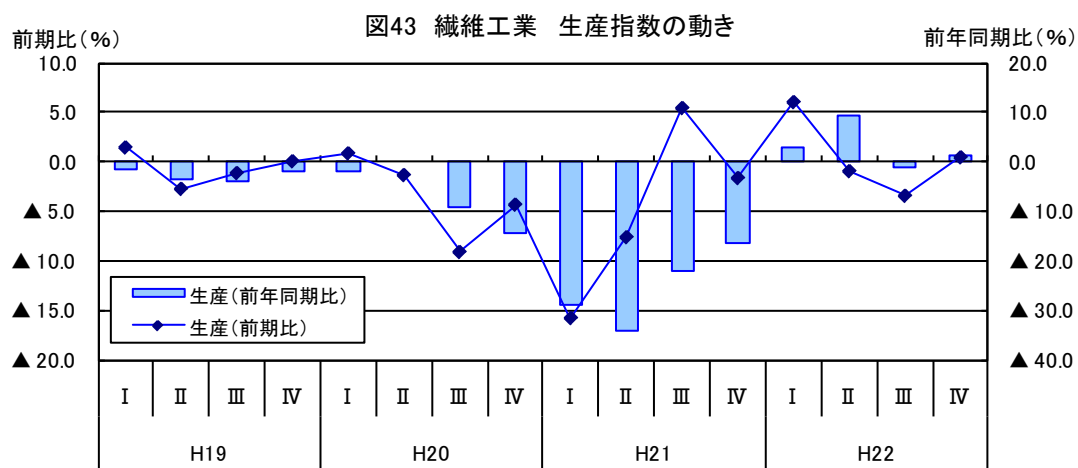
図 42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成17年=100)



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、I期は6.1%と上昇し、II期▲0.9%、III期▲3.4%と2期連続で低下したが、IV期では0.5%と再び上昇した。

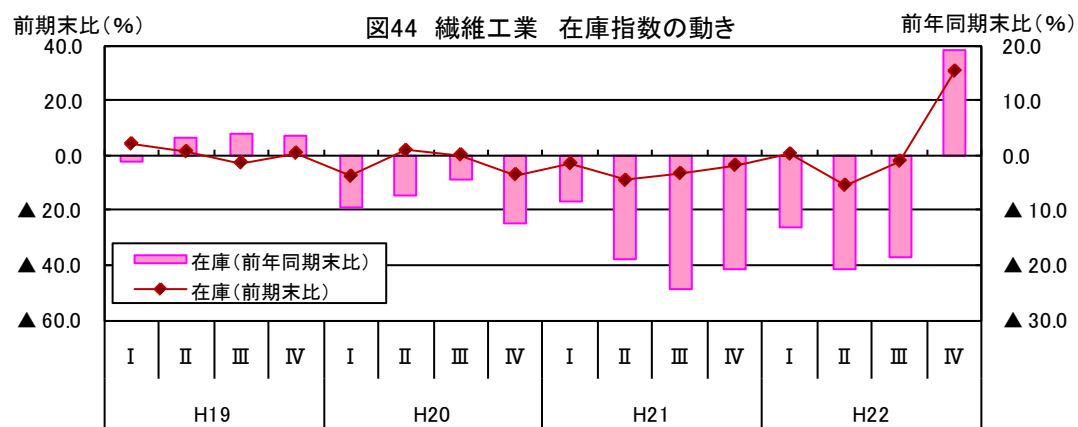
また、前年同期比（原指数）は、I期2.8%、II期9.2%と2期連続で前年を上回ったが、III期は▲1.0%と前年を下回り、IV期では1.1%と再び前年を上回った（図43）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、I期は0.5%と上昇したが、II期▲10.9%、III期▲2.1%と2期連続で低下し、IV期では30.7%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、I期▲13.1%、II期▲20.6%、III期▲18.6%と平成20年I期以降11期連続で前年を下回ったが、IV期では19.2%と前年を上回った（図44）。



(12) 食料品工業

① 概況

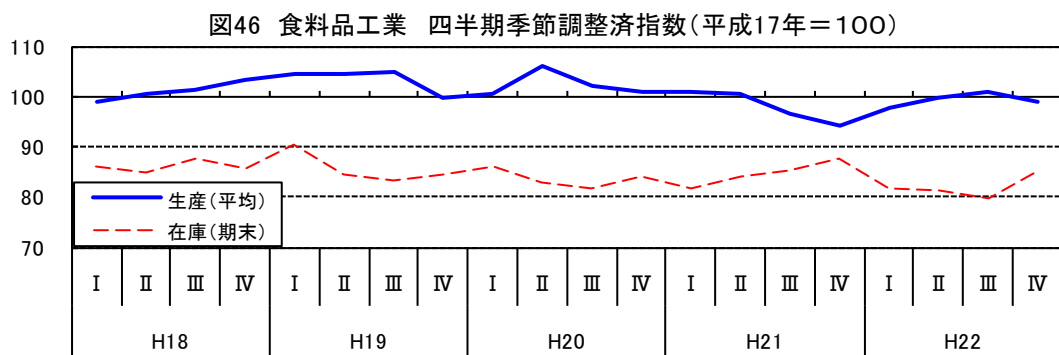
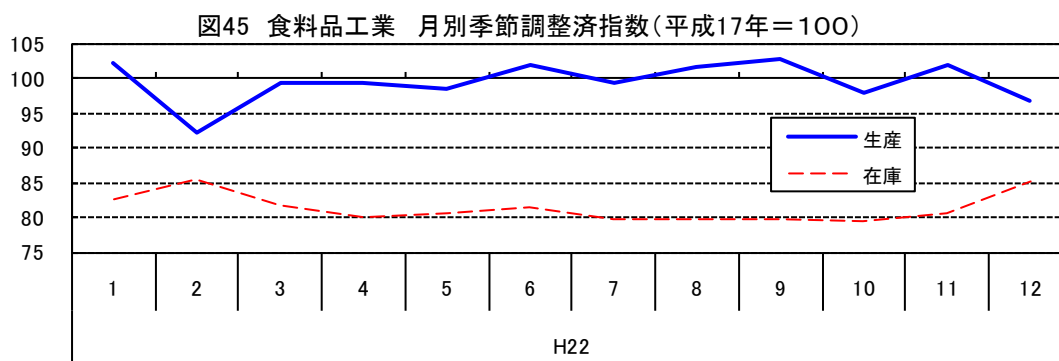
生産指数は前年比 1.7%（寄与度 0.06）上昇の 99.5 となり、3 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 8 品目中、5 品目（乳製品、調味料、畜産製品、その他食料品工業製品、その他食料品）が減少したものの、3 品目（冷凍調理品、惣菜、飲料）が増加したことによる（表 12）。

在庫指数は前年末比▲1.8%（寄与度▲0.13）低下の 76.6 となり、2 年ぶりに低下した。これは 8 品目中 2 品目（その他食料品など）が増加したものの、6 品目（飲料など）が減少したことによる（表 12）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
食料品工業	265.3	97.8	99.5	1.7	0.06	848.1	78.0	76.6	▲ 1.8	▲ 0.13
冷凍調理品	26.0	125.8	149.6	18.9	0.08	11.0	69.6	56.1	▲ 19.4	▲ 0.02
乳製品	28.8	103.5	96.9	▲ 6.4	▲ 0.03	28.7	88.6	88.1	▲ 0.6	▲ 0.00
調味料	15.1	91.3	87.1	▲ 4.6	▲ 0.01	34.2	100.0	107.1	7.1	0.03
畜産製品	30.1	97.5	93.1	▲ 4.5	▲ 0.02	7.1	52.5	46.2	▲ 12.0	▲ 0.01
惣菜	14.3	97.1	104.5	7.6	0.01	3.3	145.8	137.4	▲ 5.8	▲ 0.00
飲料	111.1	96.7	100.1	3.5	0.05	754.2	76.5	74.4	▲ 2.7	▲ 0.18
その他食料品工業製品	0.5	102.6	88.6	▲ 13.6	▲ 0.00	1.8	132.6	122.5	▲ 7.6	▲ 0.00
その他食料品	39.4	81.5	74.2	▲ 9.0	▲ 0.04	7.8	75.4	130.7	73.3	0.05

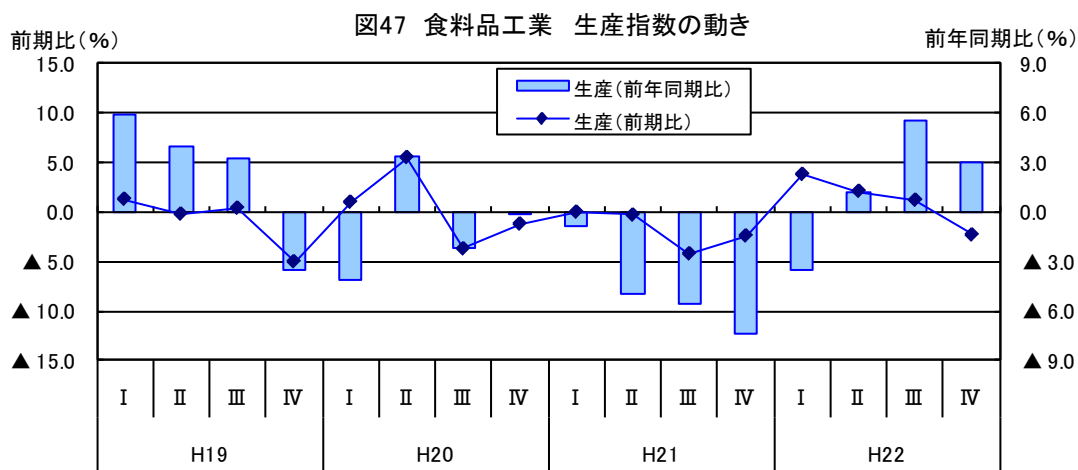
平成17年=100
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 3.8%、Ⅱ期 2.1%、Ⅲ期 1.2%と 3 期連続で上昇したが、Ⅳ期では▲2.3%と低下した。

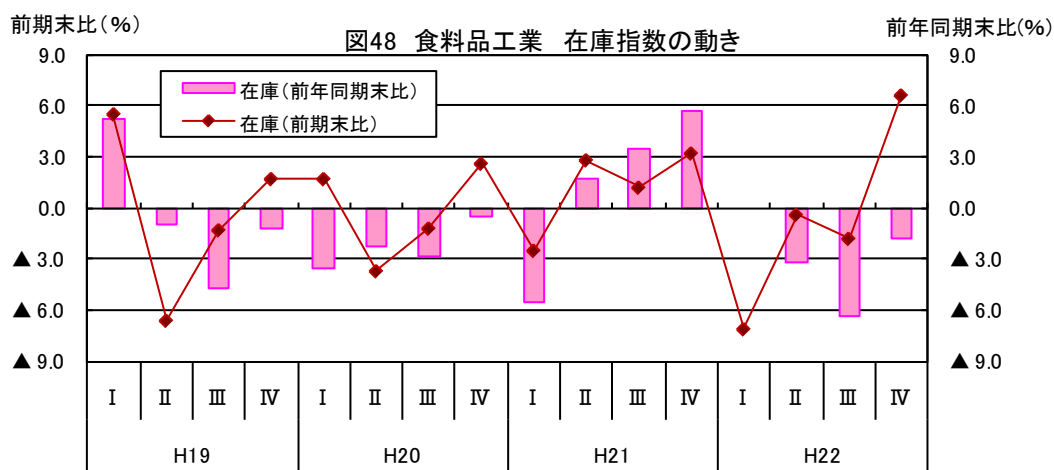
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲3.5%と平成 20 年Ⅲ期以降 7 期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期 1.2%、Ⅲ期 5.6%、Ⅳ期 3.0%と 3 期連続で前年を上回った（図 47）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲7.1%、Ⅱ期▲0.4%、Ⅲ期▲1.8%と 3 期連続で低下したが、Ⅳ期では 6.6%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は 0.0%と前年比横ばいだったが、Ⅰ期 ▲3.2%、Ⅲ期▲6.4%、Ⅳ期▲1.8%と 3 期連続で前年を下回った（図 48）。



(13) その他工業

① 概況

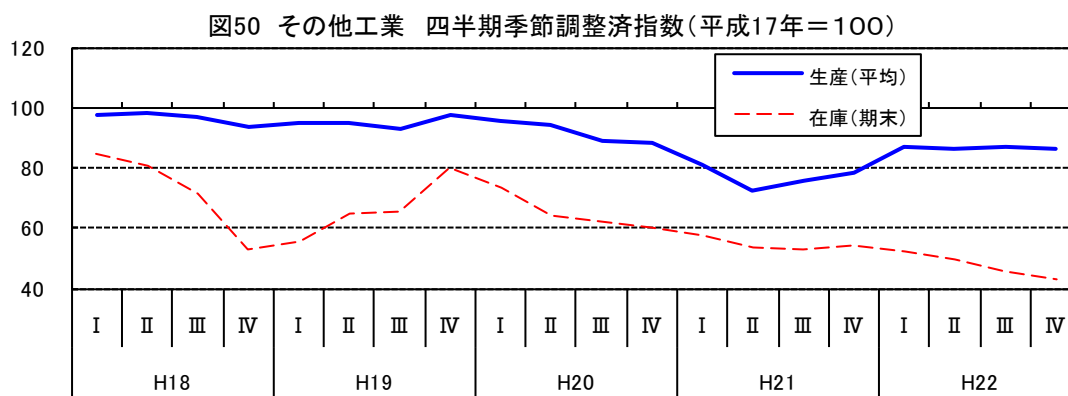
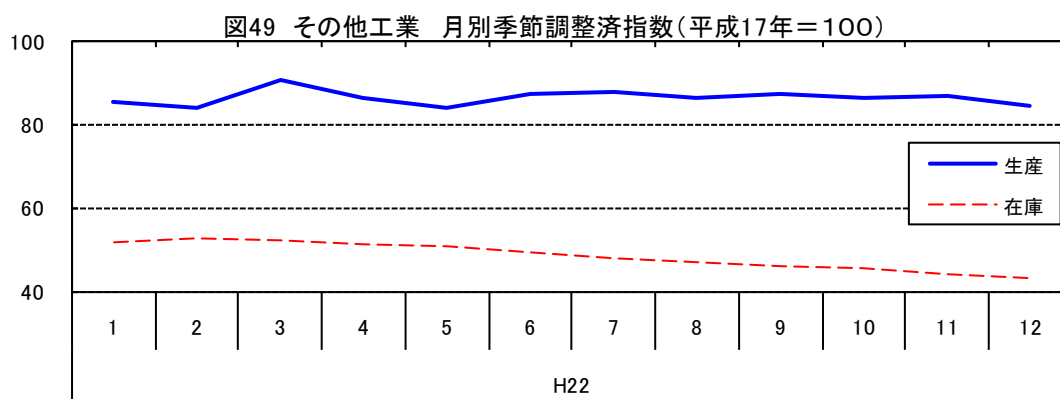
生産指数は前年比 12.9%（寄与度 0.74）上昇の 86.8 となり、7 年ぶりに上昇した（統計表第 1 表）。これは 5 品目中、1 品目（精密機械工業）が減少したものの、4 品目（ゴム製品工業、印刷業、木材・木製品工業、その他製品工業）が増加したことによる（表 13）。

在庫指数は前年末比▲22.0%（寄与度▲0.54）低下の 41.2 となり、3 年連続で低下した。これは 4 品目中、1 品目（その他製品工業）が増加したものの、3 品目（精密機械工業など）が減少したことによる（表 13）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		平成21年	平成22年				平成21年	平成22年		
その他工業	557.3	76.9	86.8	12.9	0.74	412.8	52.8	41.2	▲ 22.0	▲ 0.54
ゴム製品工業	43.2	62.8	76.2	21.3	0.08	31.9	82.6	72.5	▲ 12.2	▲ 0.04
印刷業	107.9	102.9	109.6	6.5	0.10	-	-	-	-	-
木材・木製品工業	78.3	45.6	48.0	5.3	0.03	270.4	41.8	34.0	▲ 18.7	▲ 0.24
精密機械工業	11.7	260.3	221.2	▲ 15.0	▲ 0.06	38.6	137.4	74.5	▲ 45.8	▲ 0.27
その他製品工業	316.2	70.9	85.2	20.2	0.61	71.9	35.5	36.7	3.4	0.01

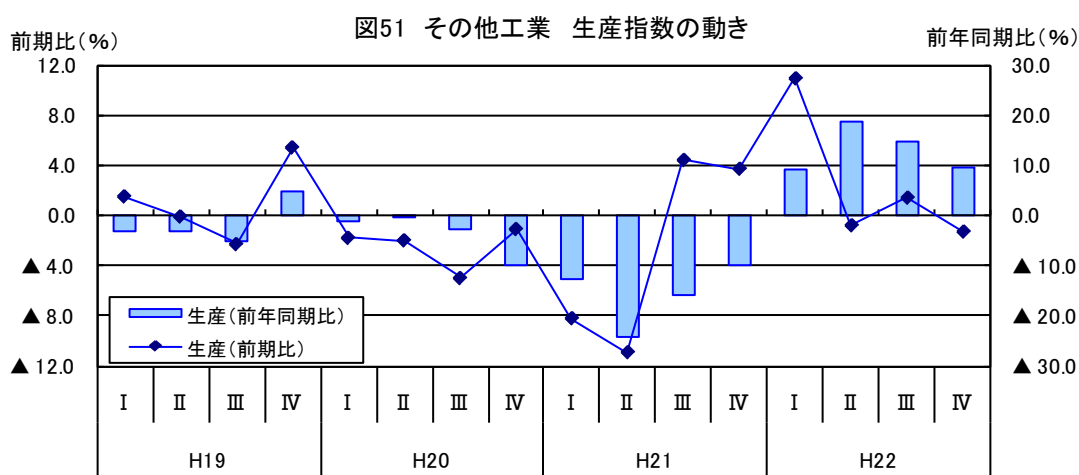
寄与度は鉱工業に対する数値



② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期は10.9%と平成21年Ⅲ期以降3期連続で上昇し、Ⅱ期は▲0.8%と低下したが、Ⅲ期では1.4%と再び上昇し、Ⅳ期では▲1.3%と再び低下した。

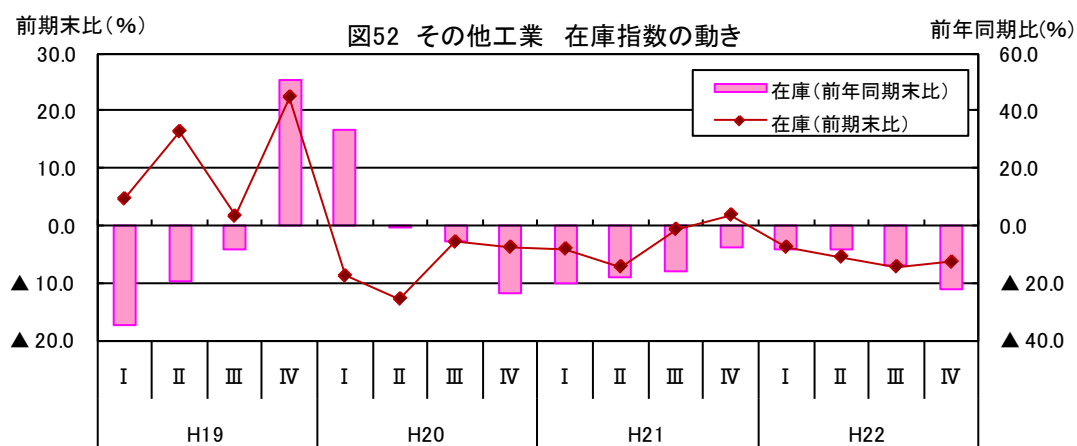
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期9.2%、Ⅱ期18.5%、Ⅲ期14.7%、Ⅳ期9.4%と4期連続で前年を上回った（図51）。



③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.7%、Ⅱ期▲5.4%、Ⅲ期▲7.1%、Ⅳ期▲6.3%と4期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲8.4%、Ⅱ期▲8.1%、Ⅲ期▲13.8%、Ⅳ期▲22.0%と平成20年Ⅱ期以降11期連続で前年を下回った（図52）。



3 財用途別動向

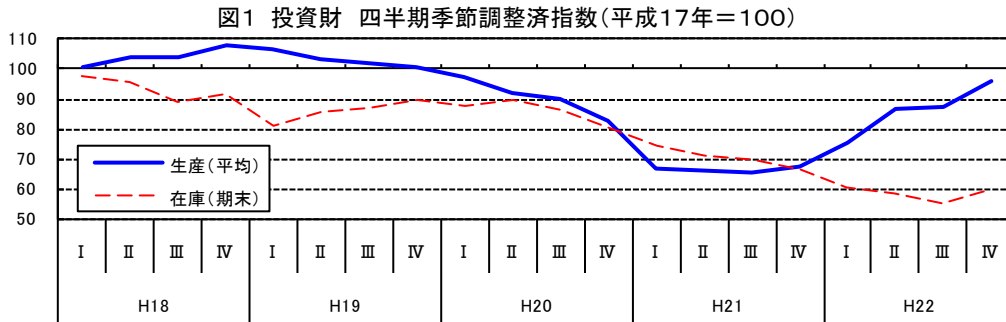
注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

(1) 最終需要財

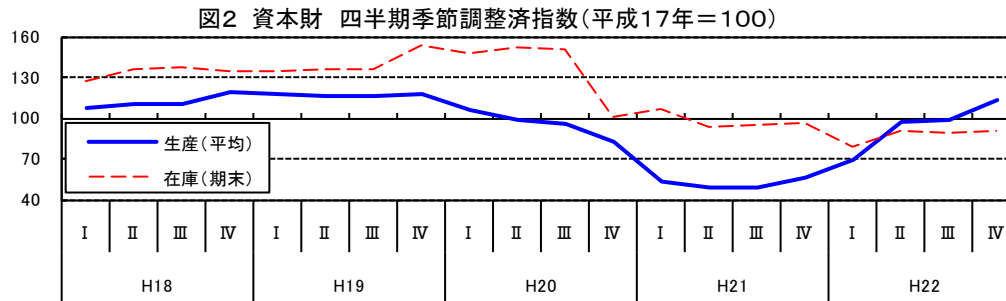
生産は前年比 14.6%上昇の 107.0 となり、在庫は前年末比▲16.4%低下の 90.8 となった(統計表第 2 表・第 11 表・第 13 表)。

① 投資財

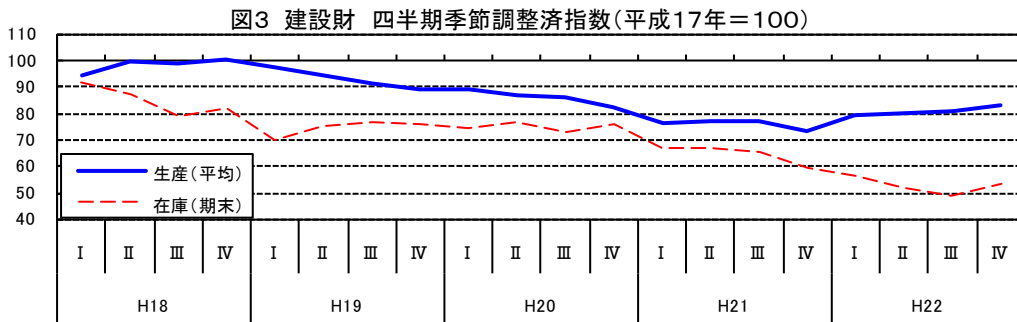
投資財全体では、生産が前年比(原指数) 30.9%上昇の 86.4 となり、在庫が前年末比▲8.1%低下の 60.1 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)でみると、I 期 12.4%、II 期 15.0%、III 期 0.9%、IV 期 9.2%と平成 21 年IV期以降 5 期連続で上昇した(図 1、統計表第 2 表・第 11 表・第 12 表・第 13 表)。



投資財のうち**資本財**は、生産が前年比 79.7%上昇の 94.0 となり、在庫が前年末比▲5.5%低下の 90.2 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)でみると、I 期、II 期、III 期、IV 期と平成 21 年IV期以降 5 期連続で上昇した(図 2)。

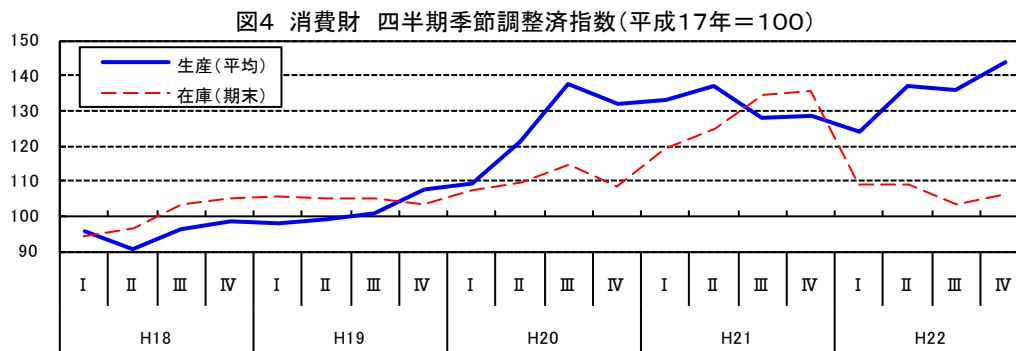


また、**建設財**は、生産が前年比 6.9%上昇の 81.0 となり、在庫が前年末比▲9.0%低下の 53.8 となった。また、生産を前期比(季節調整済指数)でみると、I 期、II 期、III 期、IV 期と 4 期連続で上昇した(図 3)。

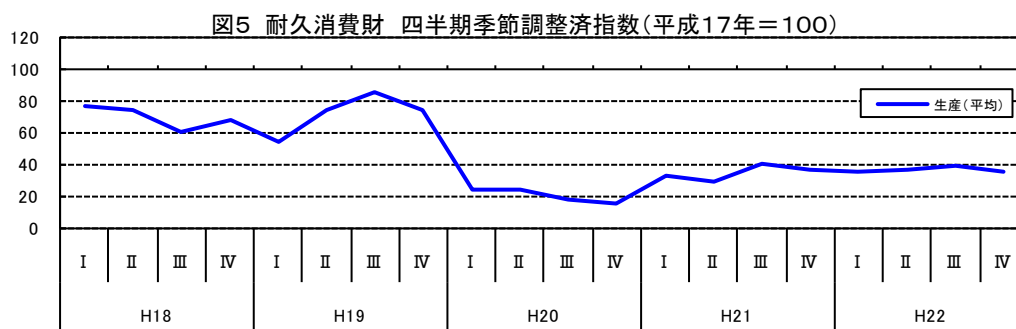


② 消費財

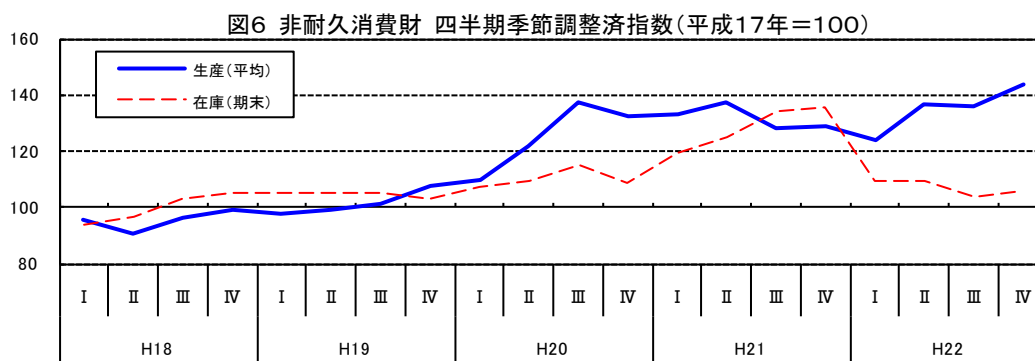
消費財全体では、生産が前年比（原指数）3.1%上昇の135.6となり、在庫が前年末比▲18.5%低下の107.3となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期は▲3.7%と低下し、II期は10.3%と上昇したが、III期では▲0.7%と再び低下し、IV期では5.7%と再び上昇した（図4、統計表第2表・第11表・第12表・第13表）。



消費財のうち**耐久消費財**は、生産が前年比8.1%上昇の37.3となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期は低下し、II期、III期と2期連続で上昇したが、IV期では再び低下した（図5）。

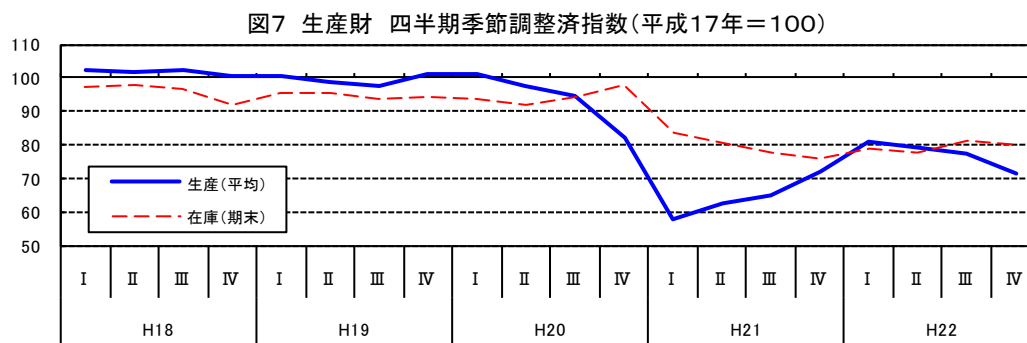


非耐久消費財は、生産が前年比3.1%上昇の135.7となり、在庫が前年末比▲18.5%低下の107.3となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期は低下し、II期は上昇したが、III期では再び低下し、IV期では再び上昇した（図6）。



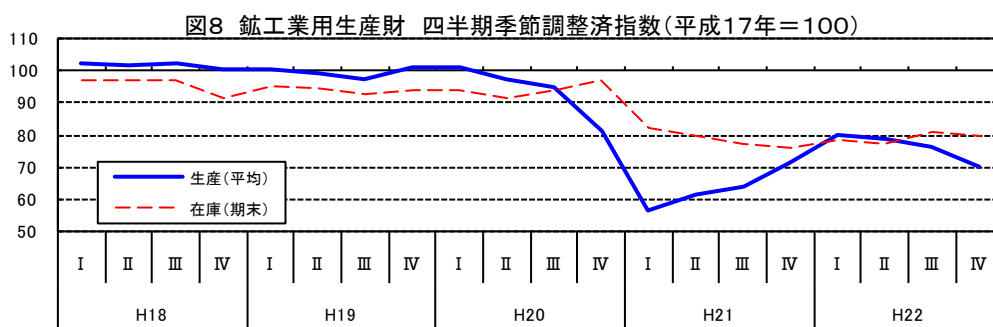
(2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）19.3%上昇の77.2となり、在庫が前年末比4.5%上昇の79.3となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期は12.1%と平成21年II期以降4期連続で上昇したが、II期▲1.9%、III期▲2.5%、IV期▲7.5%と3期連続で低下した（図7、統計表第2表・第11表・第12表・第13表）。



① 鉱工業用生産財

生産財のうち鉱工業用生産財は、生産が前年比19.8%上昇の76.3となり、在庫が前年末比4.5%上昇の78.8となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期は上昇したが、II期、III期、IV期と3期連続で低下した（図8）。



② その他用生産財

また、その他用生産財は、生産が前年比9.6%上昇の99.3となり、在庫が前年末比3.0%上昇の88.7となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）でみると、I期、II期、III期と平成21年IV期以降4期連続で上昇したが、IV期は低下した（図9）。

